

＼ 936名に調査 ＼

# 26卒 理系院生 就活動向

## 調査レポート



## 夏インターンを主軸とした早期化傾向は、引き続き顕著

### 就職活動は特に本選考の面接開始を中心に引き続き早期化傾向

- ・ 昨年同様約75%の学生が6月までに活動開始（ナビサイトの4月OPENに合わせ、4月開始が増加）
- ・ 11月時点で70%以上の学生がすでに1社以上にエントリー済み（昨年から約12pt上昇）
- ・ 約45%の学生が本選考の面接を経験済み（昨年から約20pt上昇）

### インターン参加状況は昨年同様も、対面が復活傾向に

- ・ 一人当たりの参加社数は約5社と昨年とほぼ同様
- ・ コンテンツ内容としては実務体験型への支持が高い
- ・ 一方、会社・事業内容や人の雰囲気理解、早期選考への期待などを理由に半日/1日も人気

## 職種、勤務地への配属確約をベースとした選択をより重視

### 事業内容や職種、ライフスタイルを重視した進路選択

- ・ 推薦利用は引き続き減少傾向
- ・ 応募企業の選択軸は事業内容、年収、勤務地、職種を重視
- ・ 特に勤務地については、出身地であることよりもライフスタイルや希望職種を重視する傾向に

### 希望職種や希望勤務地の確約をより重視する傾向に

- ・ 確約希望は前年比5pt増加
- ・ 特に勤務地やジョブ（職種×領域）確約を望む声が増加
- ・ 一方、情報過多の時代にも関わらず、働くイメージを持つために必要な情報は不足傾向

## 00 調査対象

## 01 就職活動の状況

## 02 インターンシップ参加実態

参考：「働くイメージ」を持つための情報とは？

## 03 企業の選択方法、選択軸

## 04 配属確約に関する意識調査

## 05 就職活動の手段

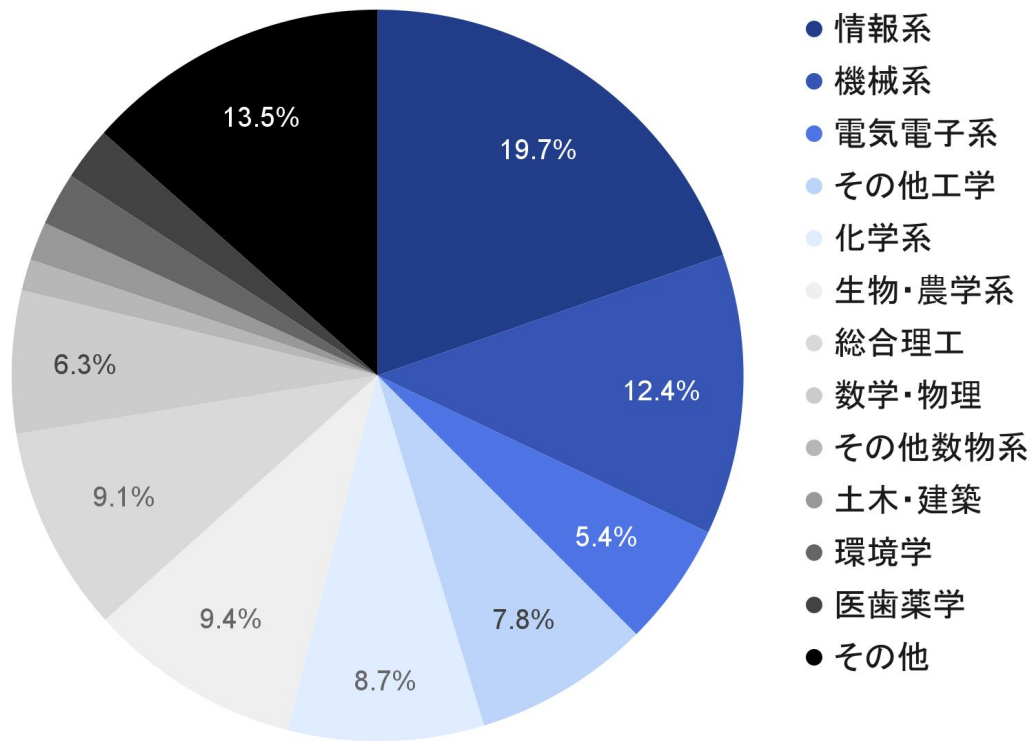
00

---

# 調査対象

## 調査対象

実施期間	2024年11月14日～2024年11月28日
調査対象	学年：26卒理系院生（修士1年生） 対象：LabBase就職ユーザー936名 （専攻不問）
回答者専攻	右記グラフ参照



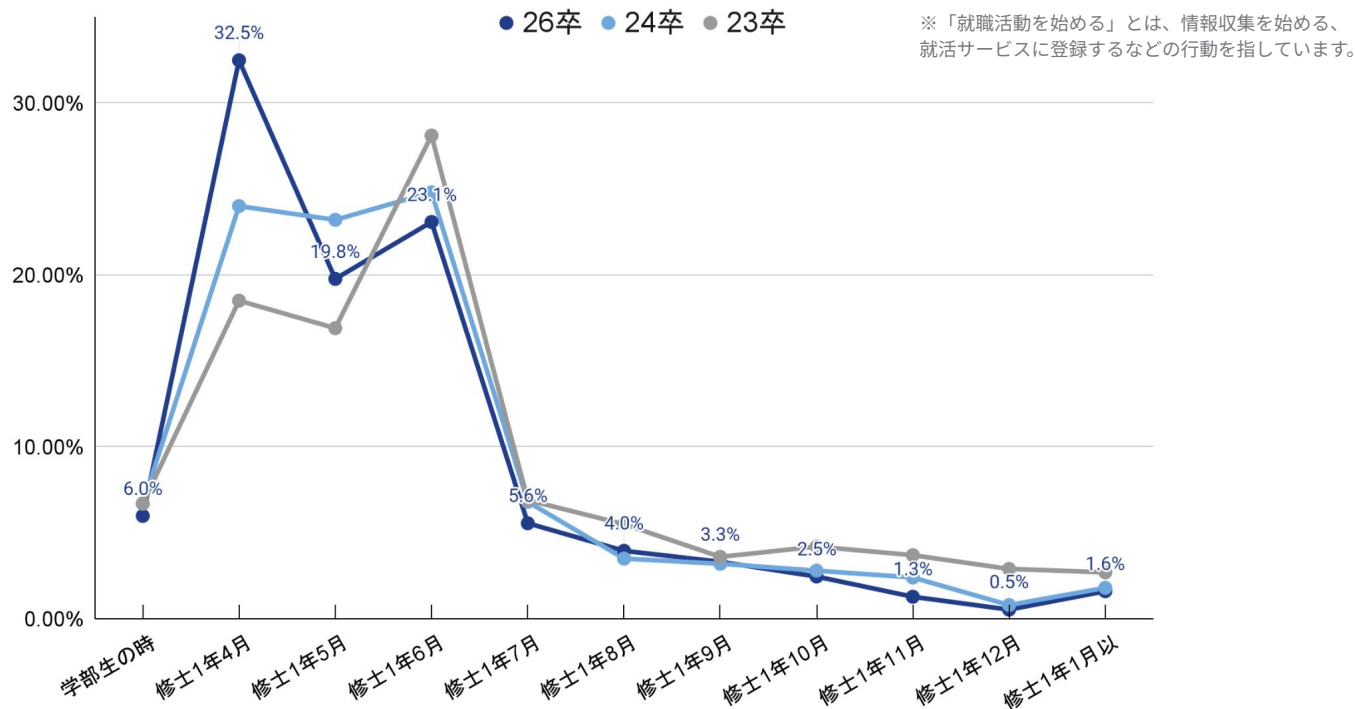
# 01

---

## 就職活動の状況

## 6月までに約75%の学生が活動を開始 ナビサイトの4月OPENに合わせ、4月開始が増加

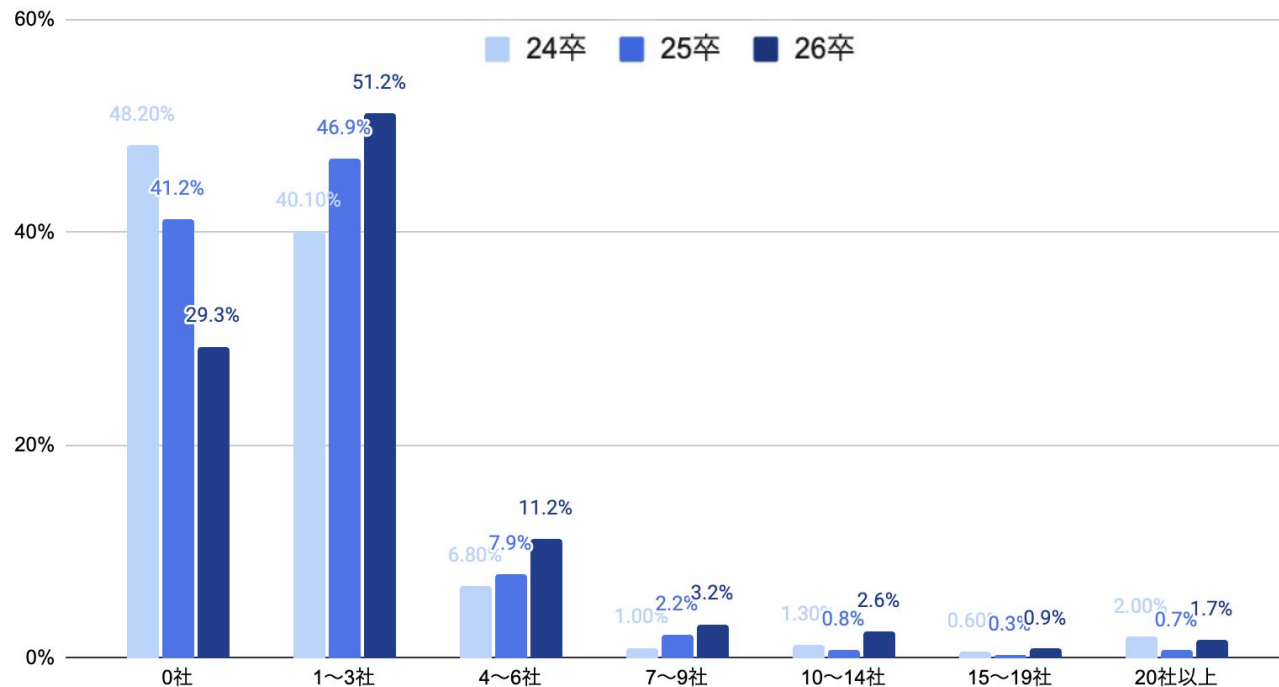
就職活動を始めた時期を教えてください。（単一回答）





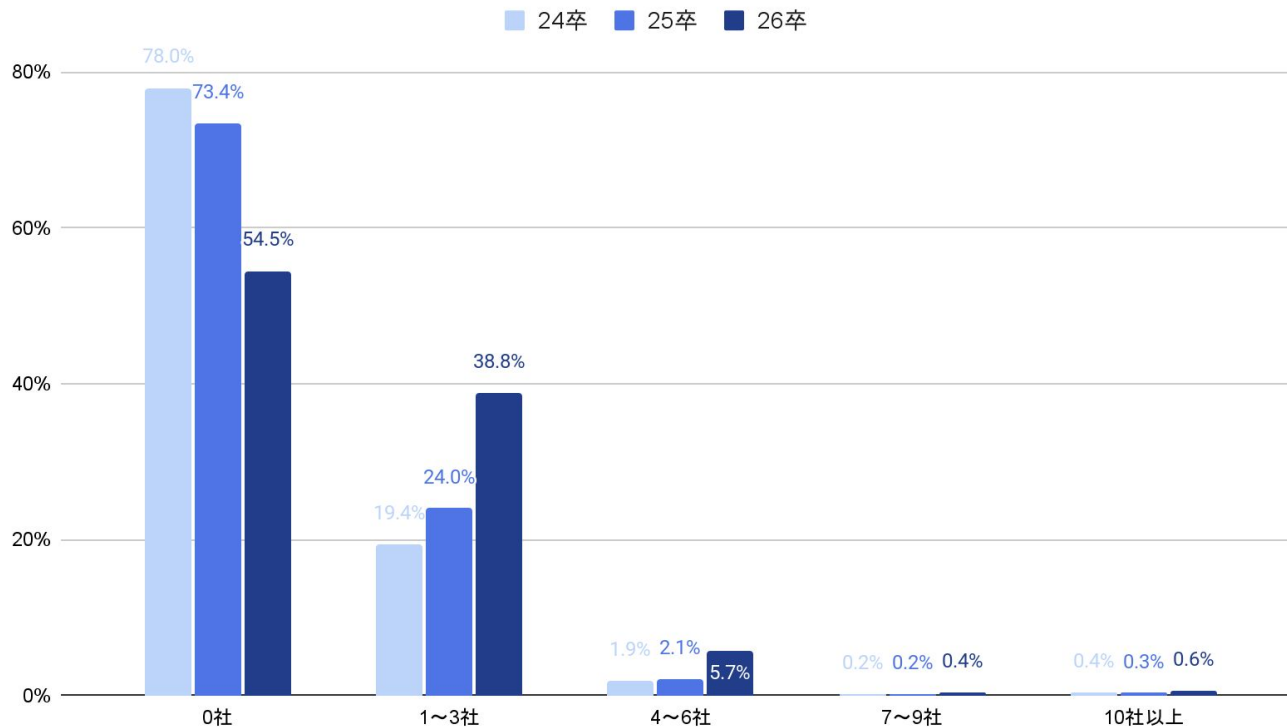
## 70%以上の学生がすでに1社以上にエントリー済み 昨年から約12pt上昇

現時点で、本選考にエントリーした社数を教えてください。（単一回答）



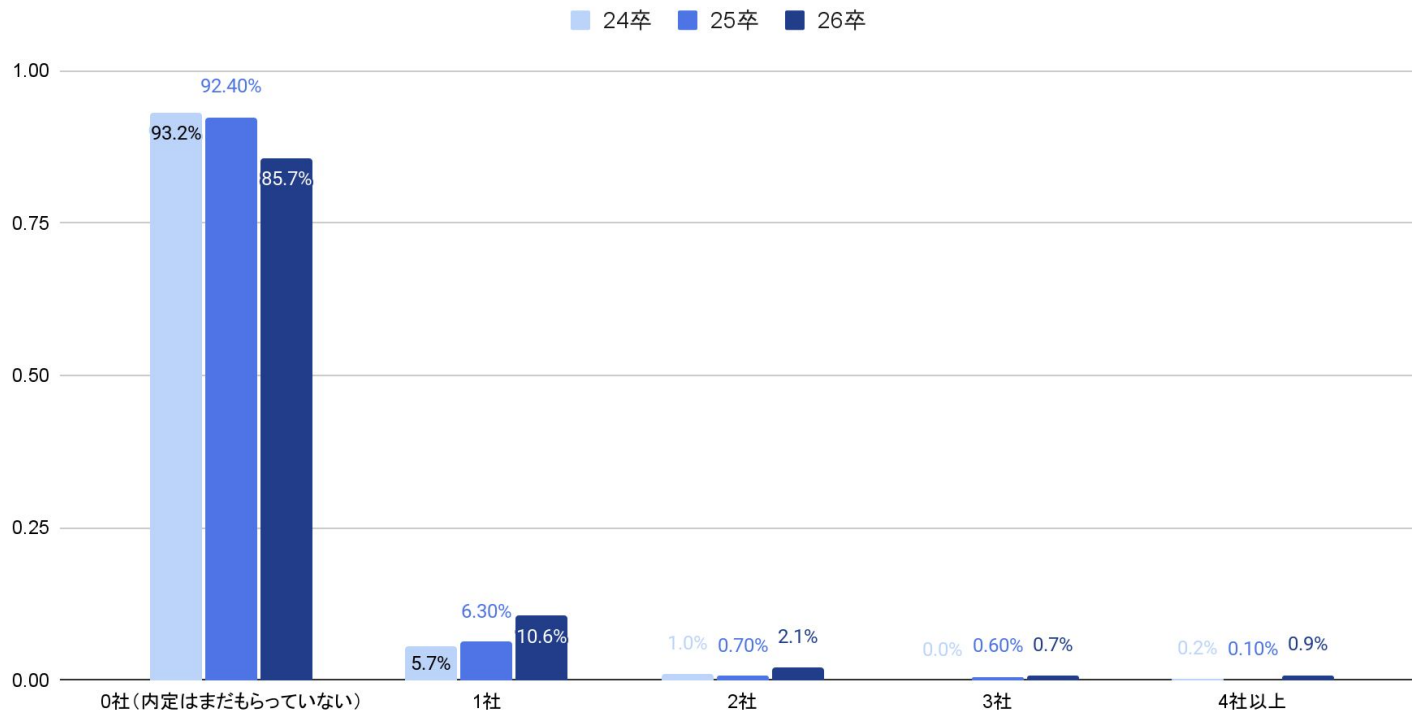
## 約45%の学生が本選考の面接を経験済み 昨年から約20pt上昇

本選考において、現時点で面接を受けた社数を教えてください。（単一回答）



## 内定も早期化傾向 11月時点で内定を持っている学生の割合が約7pt増加

本選考において、現時点で内定をもらった社数を教えてください。（単一回答）



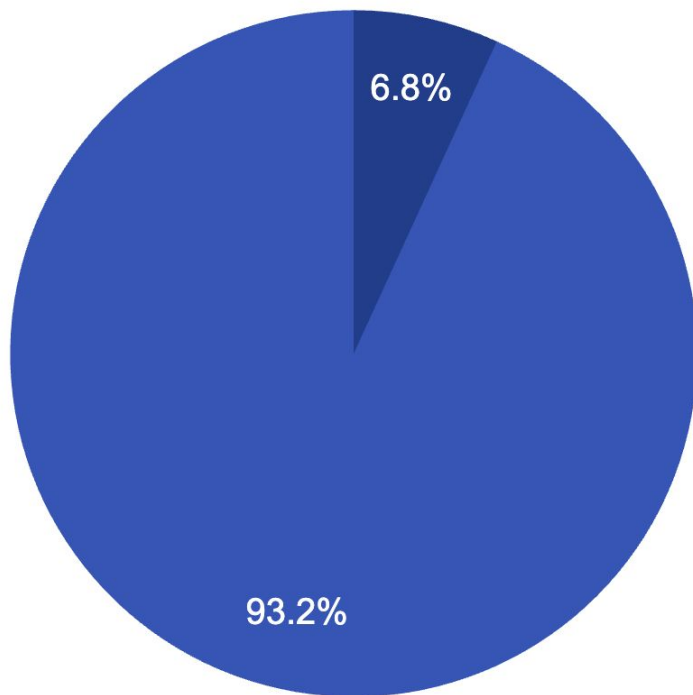
# 02

---

## インターンシップ 参加実態

## 約93%がインターンに参加

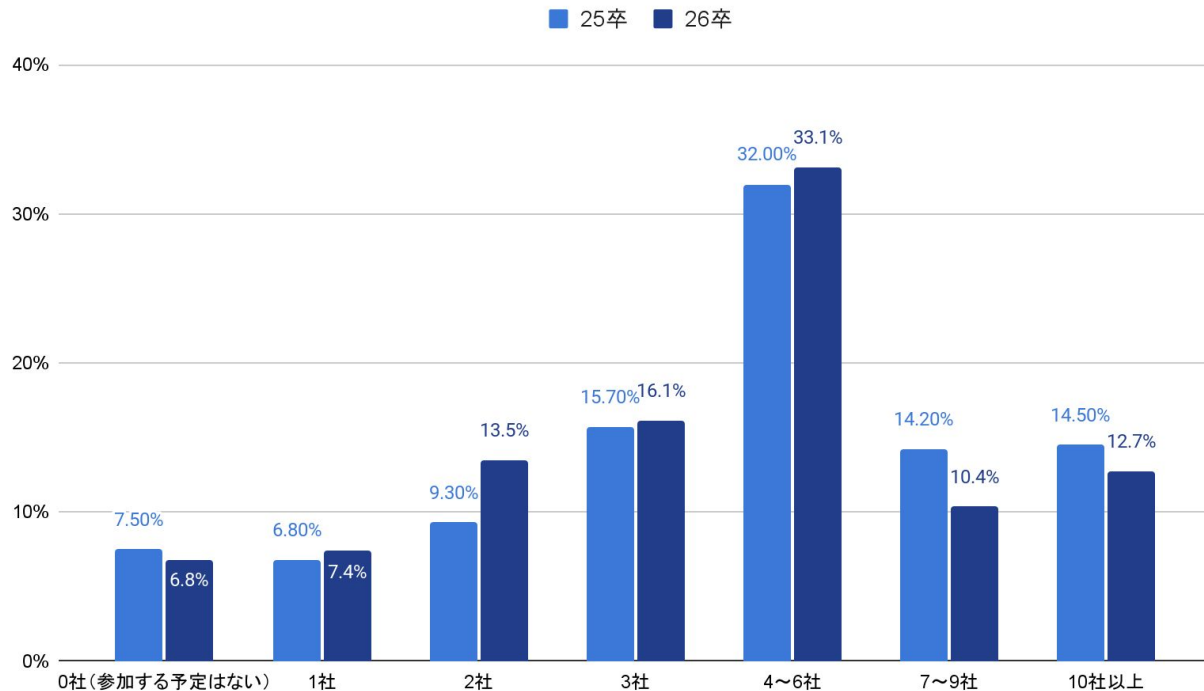
就職活動全体を通して、インターンシップに参加した / 参加する予定の社数を教えてください。（単一回答）



- 0社（参加する予定はない）
- 1社以上に参加

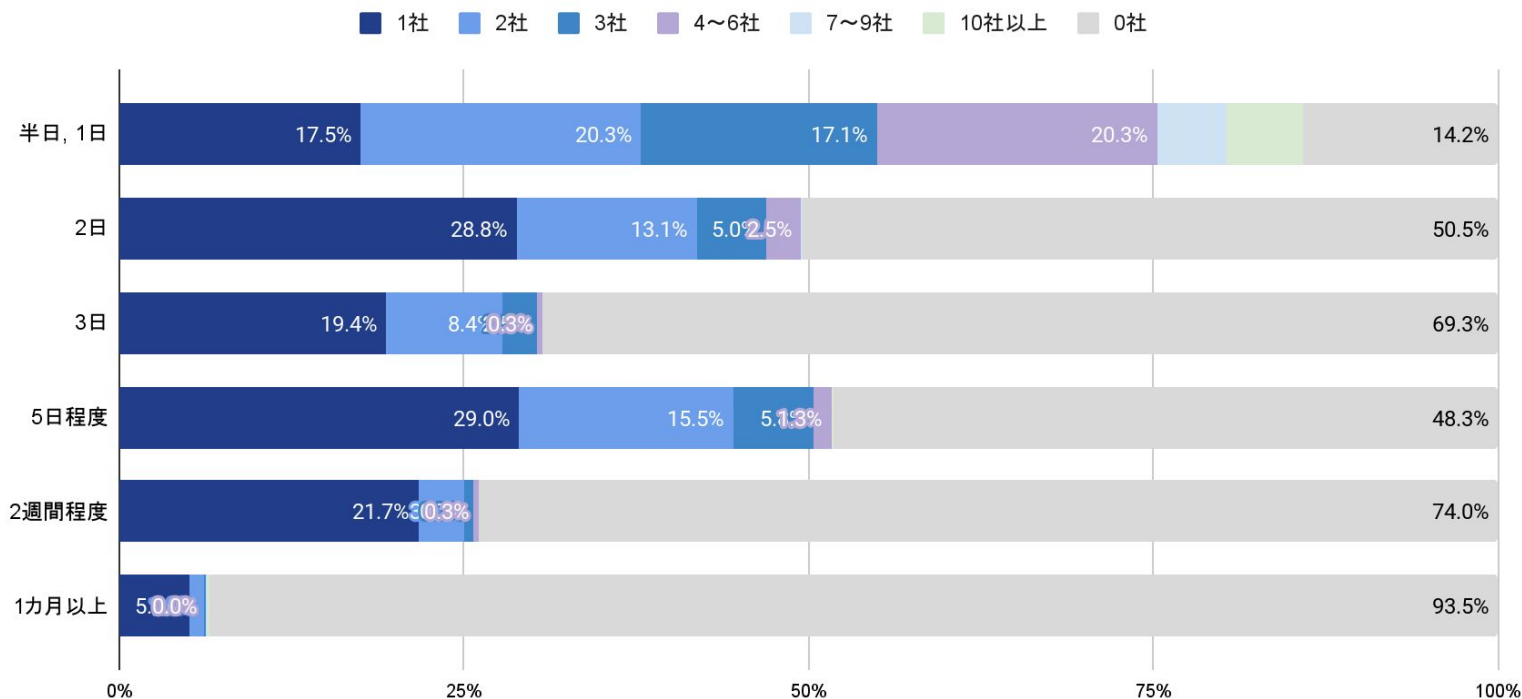
# ひとりあたりの平均参加社数は、前年と変わらず約5社

就職活動全体を通して、インターンシップに参加した / 参加する予定の社数を教えてください。（単一回答）



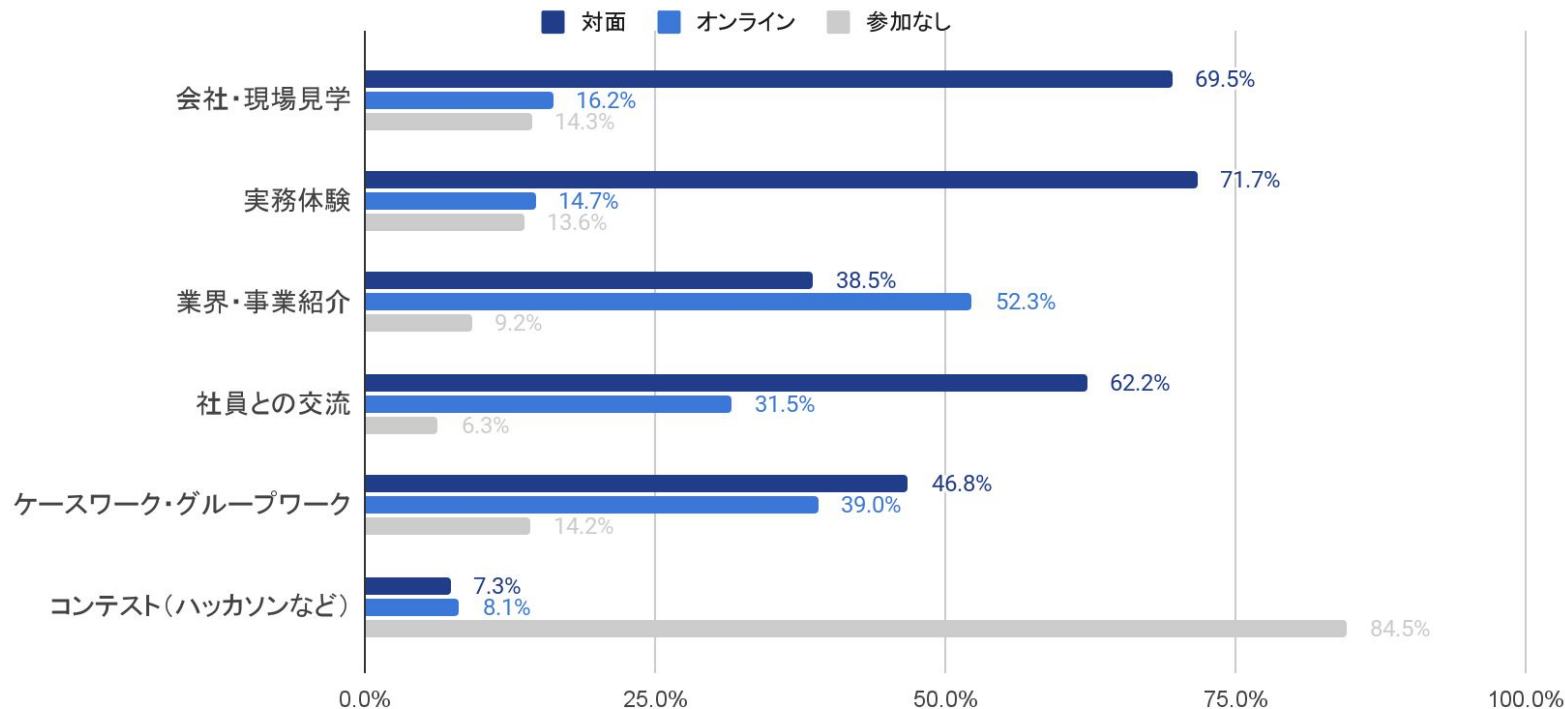
## 「半日、1日」の参加率は約86%かつ複数社参加の傾向 複数日程の参加率は50%を下回り、参加社数も1,2社が大半

どの日程のインターンシップに、何社参加した/する予定ですか。日数ごとに、社数を回答ください。



## 対面コンテンツが復活傾向

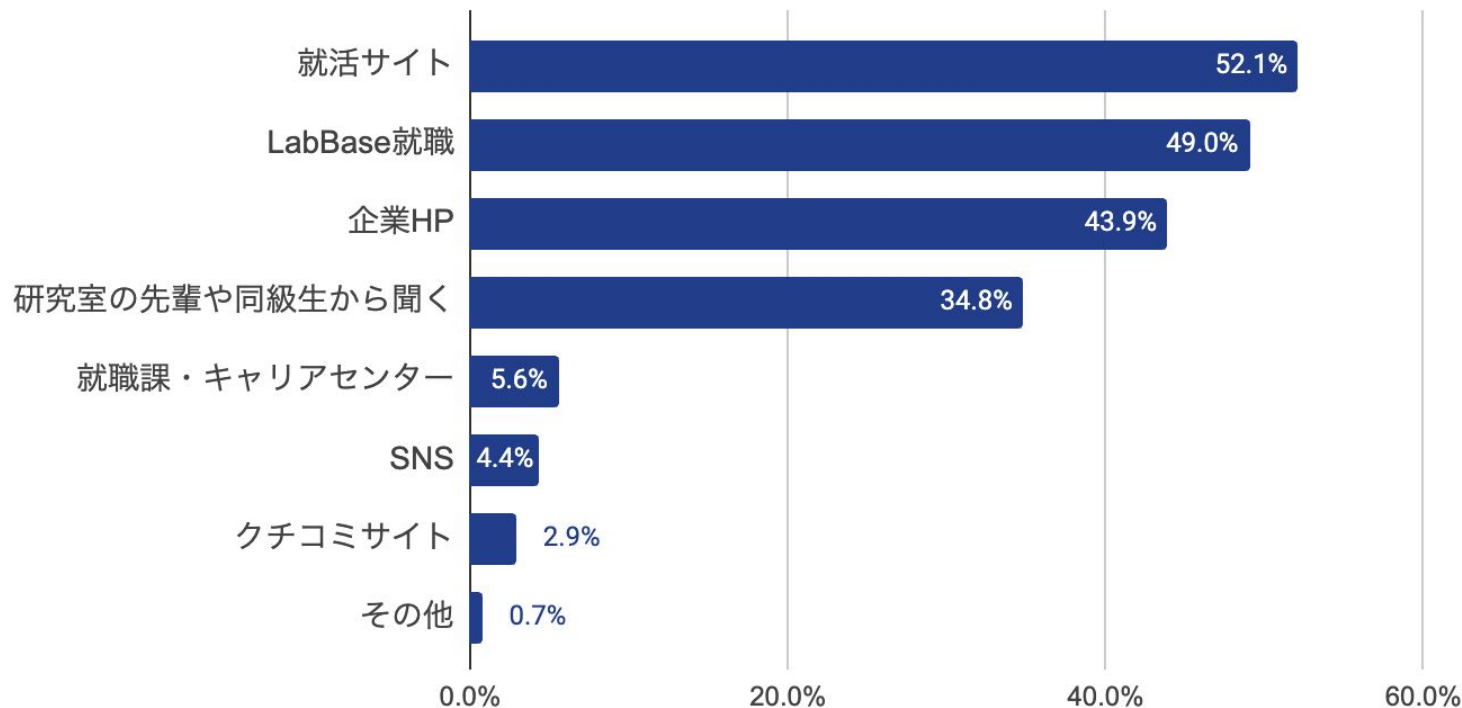
参加した/参加予定のインターンシップについて、オンラインと対面のどちらの開催形式でしたか。





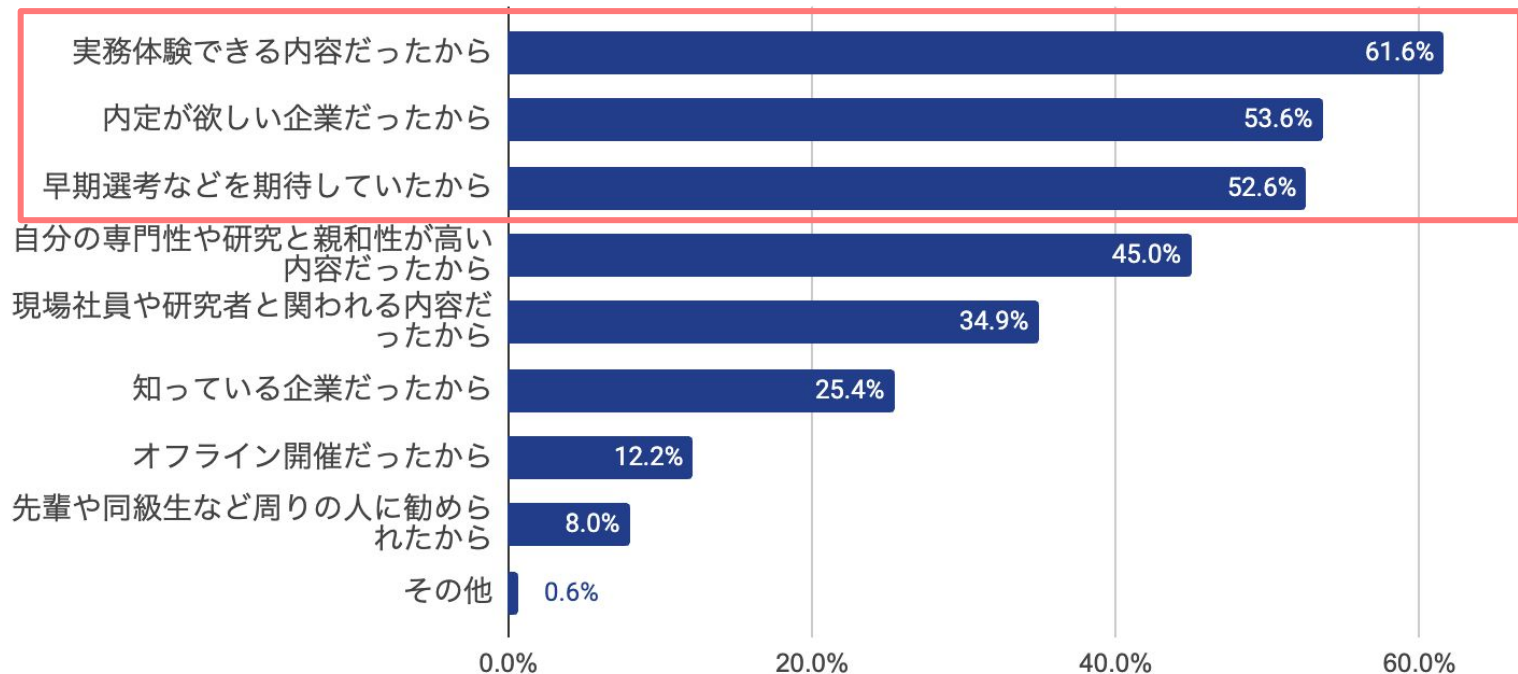
## 就活サービスや企業HPなど、広く情報を集めている傾向に。

参加するインターンシップをどのように探しましたか。（複数回答）



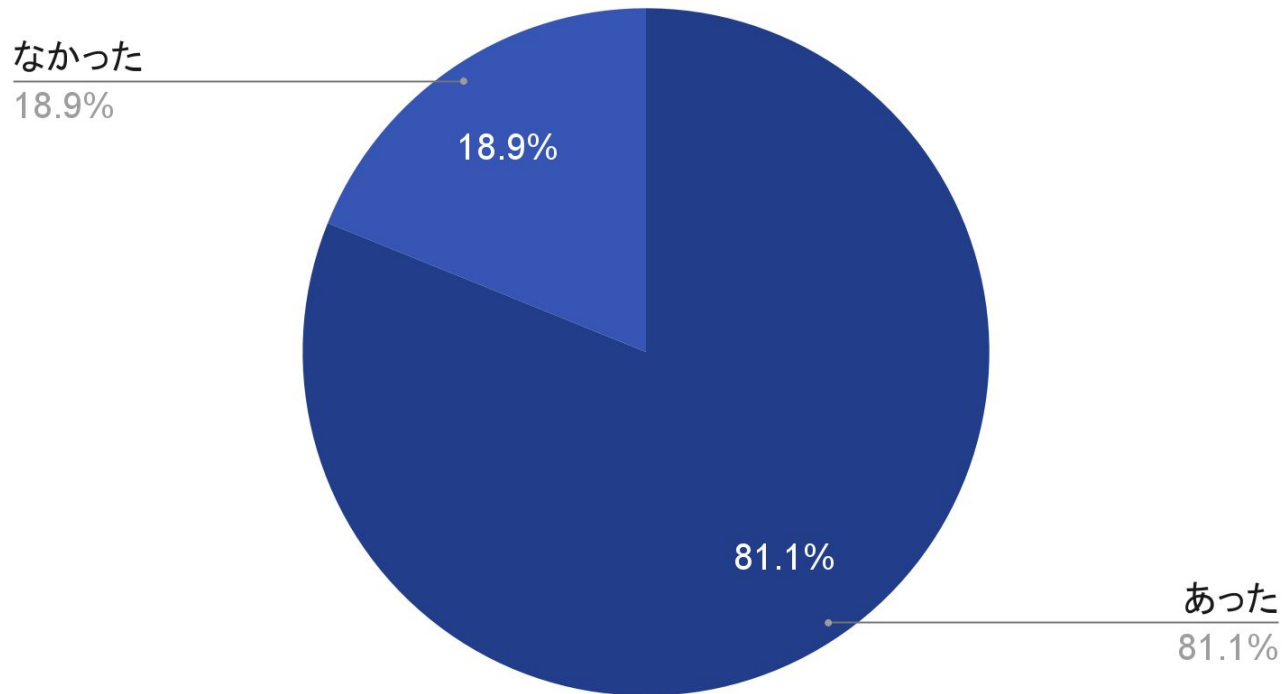
## 「実務体験」「早期選考」を期待し、インターンを選んでいる

インターンシップ参加企業を決める際、動機になったものは何ですか。（複数回答）



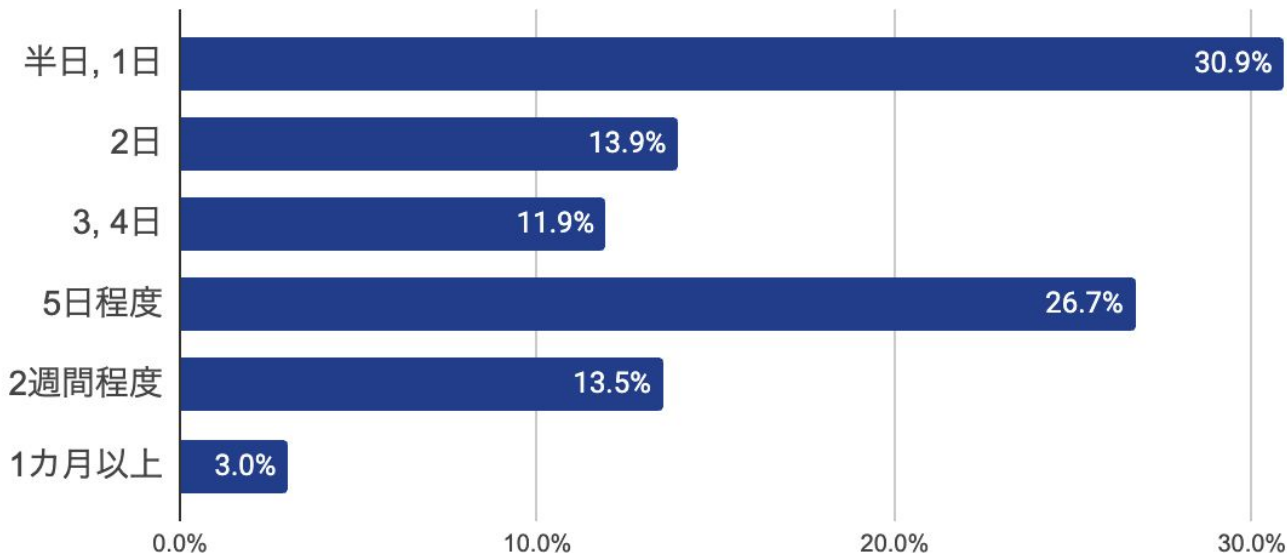
## 約81%がインターンを通じて志望度の上昇を経験

インターンを通じて、志望度が上がった企業はありましたか。（単一回答）



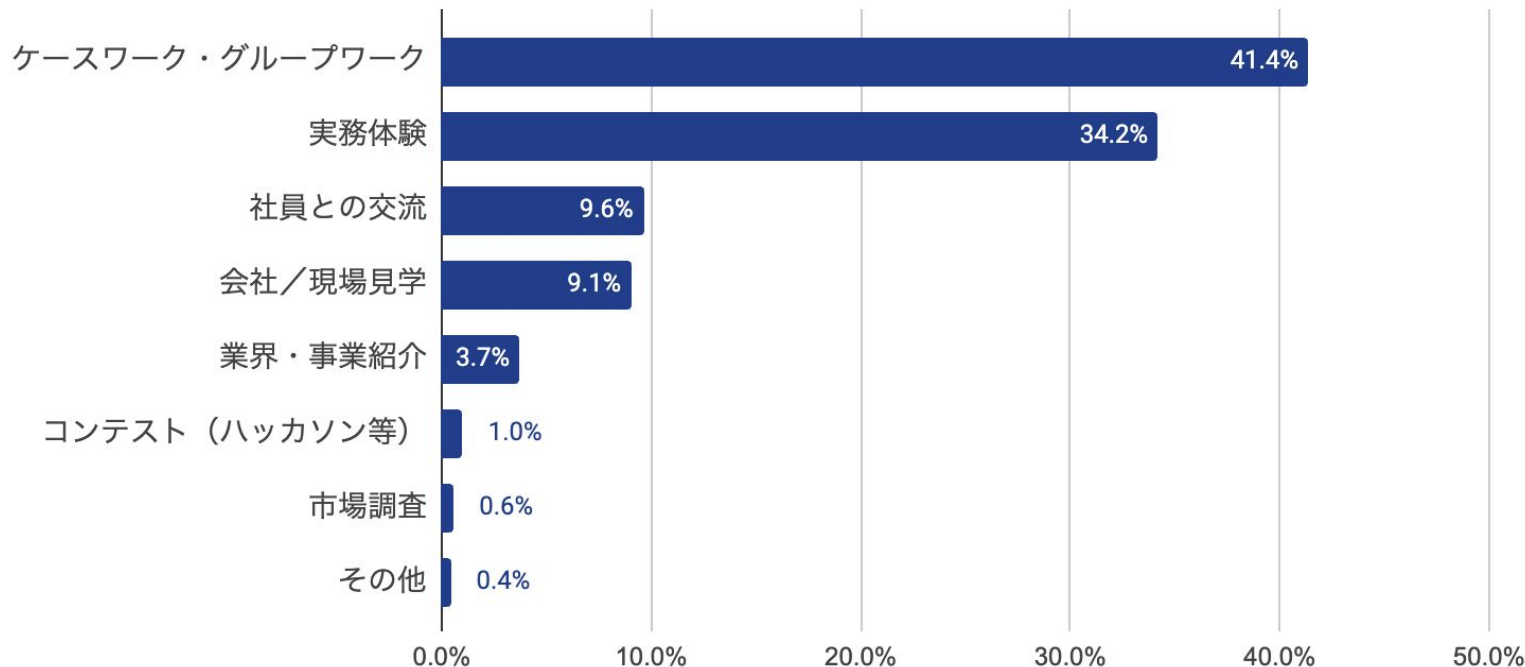
## 一定期間以上の就業体験の効果がある一方、 単日コンテンツも志望度に好影響

志望度が上がったインターンシップについて、何日開催されましたか。（単一回答）



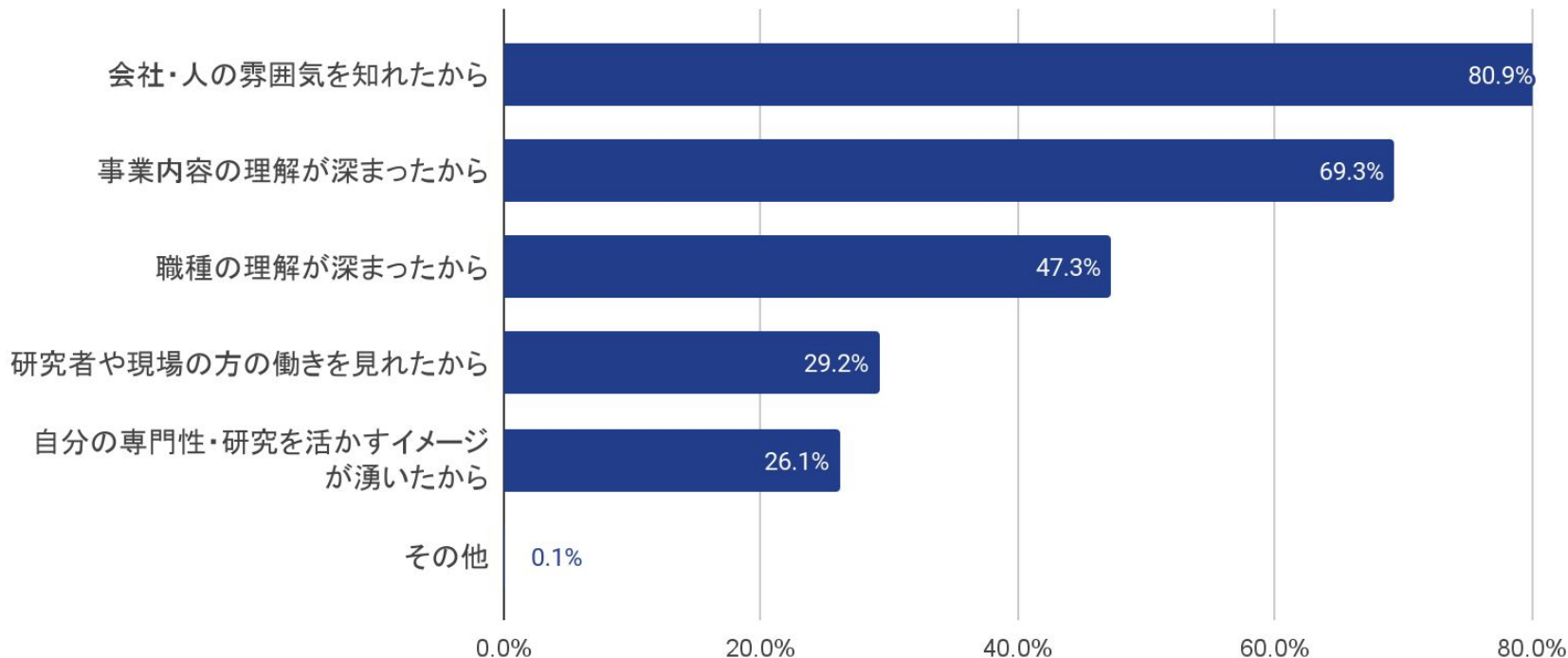
## できるだけ業務体験ができる内容が望ましい かつ社員との交流も重要な要素に

志望度が上がったインターンシップについて、主にどのような内容でしたか。（単一回答）



## カルチャーや業務に触れ、働くイメージを持てることが重要

志望度が上がったインターンシップについて、どんなきっかけで志望度が上がりましたか。（複数回答）



インターンを通じて志望度が上がった理由1：「働くイメージ」が持てた

## 特に現場社員の方との交流や実務体験により働くイメージが明確になり、志望度が上がったという声が多い。

回答いただいた企業について、インターンを通じて志望度が上がったきっかけや理由を教えてください。（自由回答）

### <学生の声>

- 実際に現場で働いている人たちの生の声 で、やりがいや苦勞を聞いたことが、その会社で働くイメージをわかせる志望度合いが上がった。
- 社員の方々と話すことで、職場の雰囲気や働き方を具体的にイメージできた。
- 研究者や現場の方の働きを見れたから
- 現場で働く方々のお話を聞き、この企業で働きたいと思ったから。

### <学生の声>

- 実際の業務を通して会社の雰囲気などがわかったから
- 実際に業務を体験し仕事への解像度が高まったため。
- 職種が確約されていたり、ハッカソンを通して、実際の業務へのイメージやその他相談する際などに社員の方について知ることができたため。

## 自分の専門性や経験が活かせる、自分とマッチしていると感じることで志望度が上がったという回答も多い。

回答いただいた企業について、インターンを通じて志望度が上がったきっかけや理由を教えてください。（自由回答）

### <学生の声>

- 元々は企業自体を知らなかった のだが、自分の参加したインターンシップのテーマが**自分の研究している内容に近い** ものであり、魅力を感じたため。
- インターン参加前のイメージと違って、**理系が活躍できるフィールドが多くある**ことを知り、**志望度が上がり**ました。

### <学生の声>

- この企業が取り組む事業は**自分の専門分野と全く違う**と思っていたが、インターンシップに参加することで、**分野が違っても生かせる知識や考え方があることを知れた** から。
- 自分の研究の経験を活かして働けると思ったから。
- 自分の興味や専門性に通じるものを見つけたため。



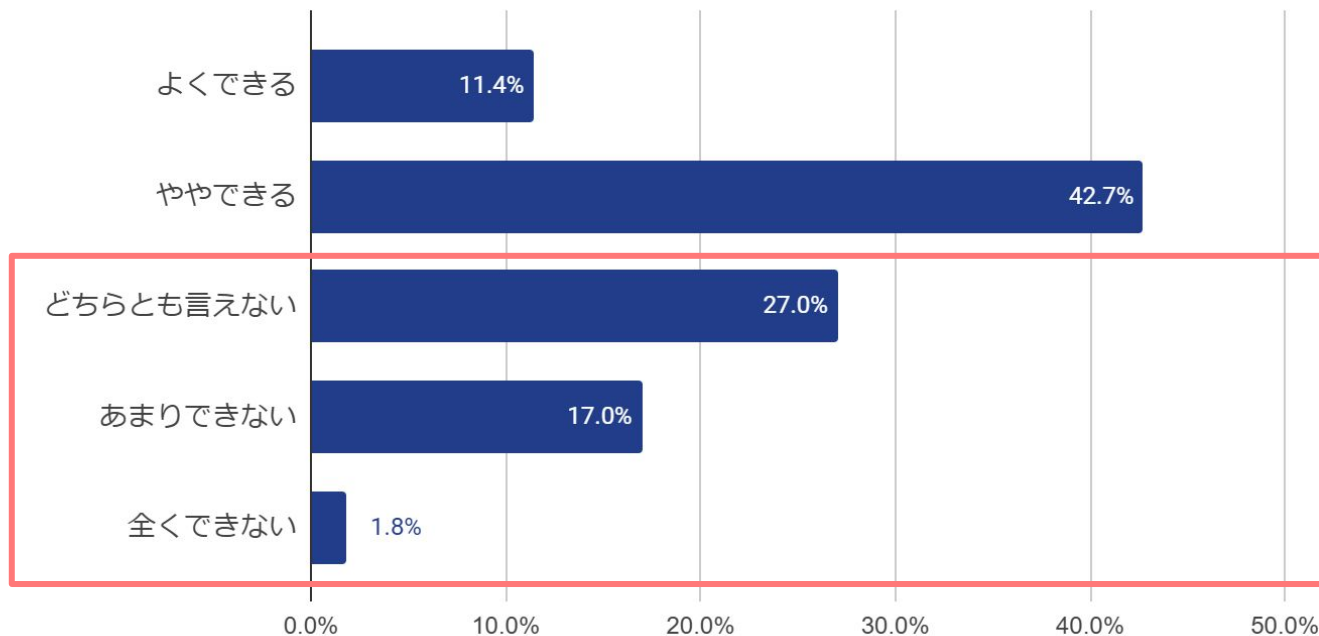
# 参考

---

「働くイメージ」を  
持つための情報とは？

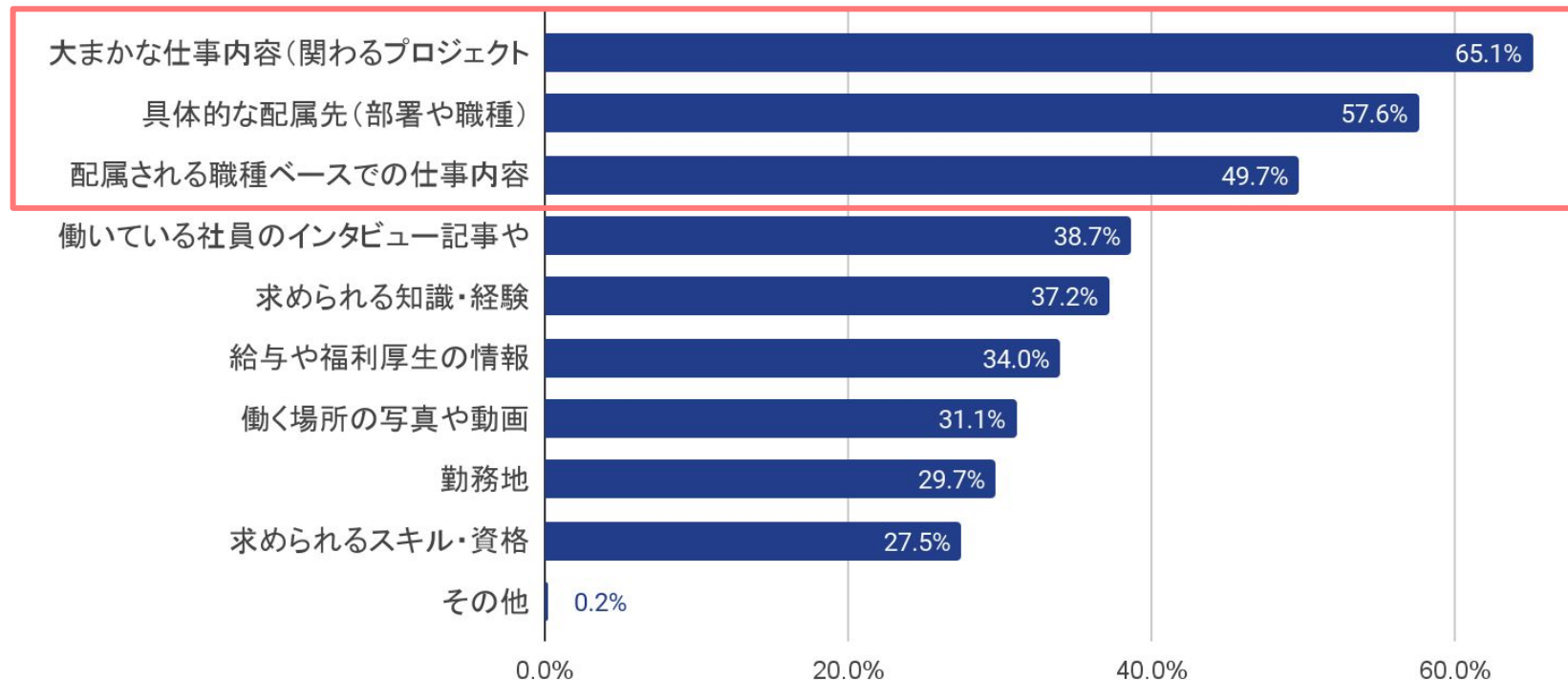
## 約60%が掲載されている情報だけでは、 働くイメージや仕事内容の理解に不安を感じている

採用HPや就職情報サイト（ナビサイトやLabBase就職など）に掲載されている情報から、  
実際の仕事内容や働くイメージは想像できますか。（単一回答）



## 情報過多の時代にも関わらず、実態として、 学生が働くイメージを持つために必要な情報は意外と不足している

仕事内容をイメージするためには具体的にどのような情報が必要ですか？（複数回答）



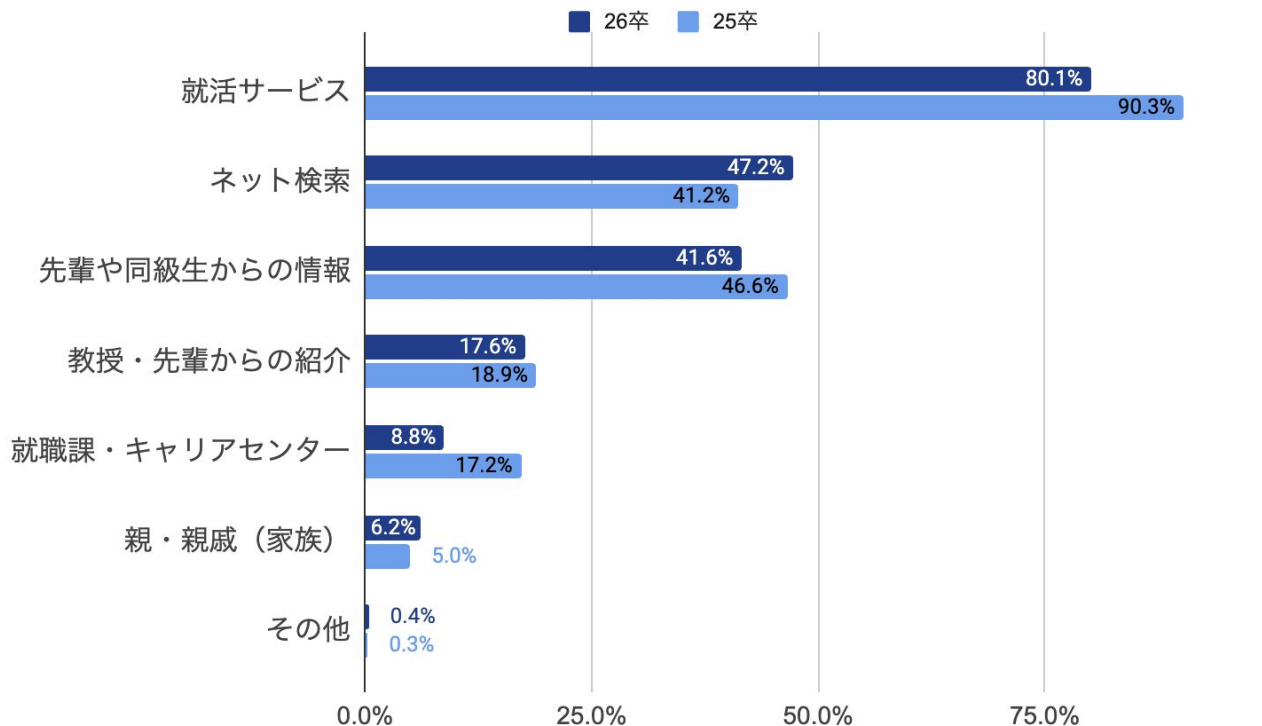
# 03

---

## 企業の選択方法、選択軸

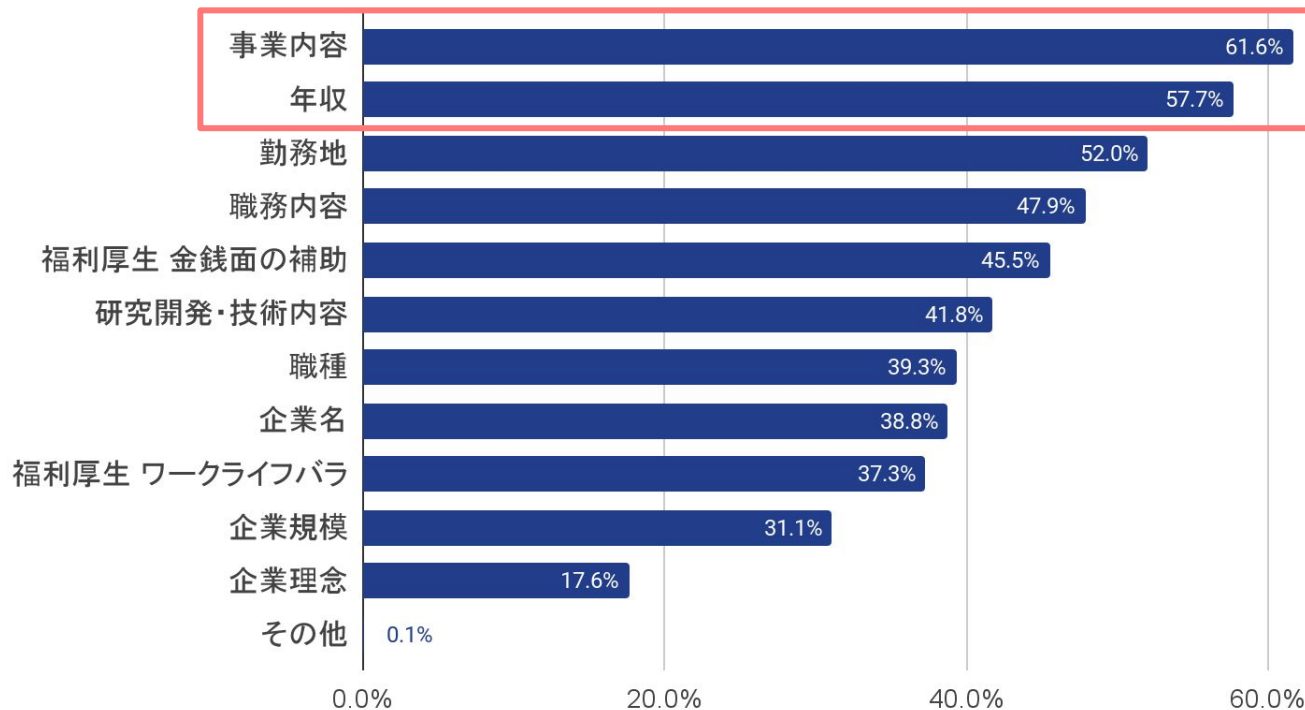
## 就活サービスの利用や能動的な検索が増えており、先輩や教授、キャリアセンターへの依存度は低下傾向

応募する企業をどのように探していますか。（複数回答）



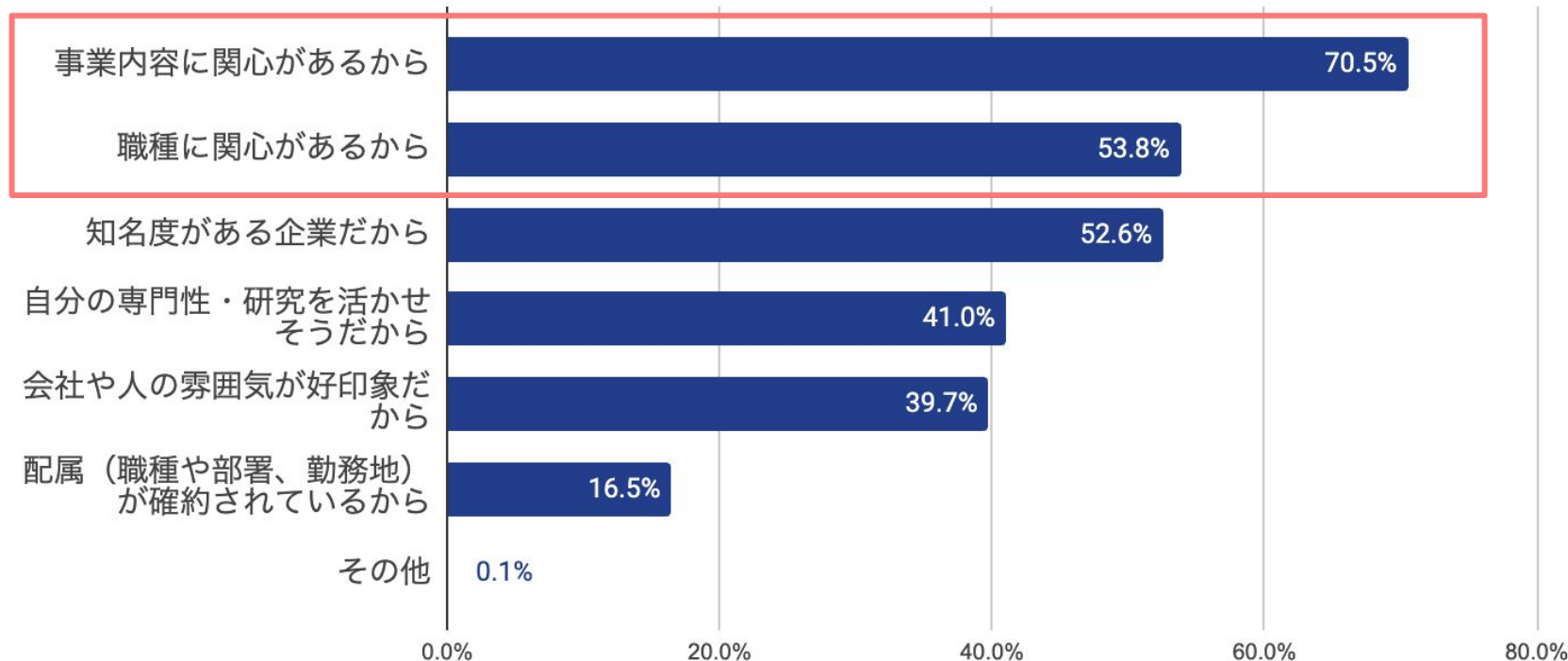
## 「業務内容」「年収」を軸に探す割合が多い

何を軸に応募する企業を探していますか。（複数回答）



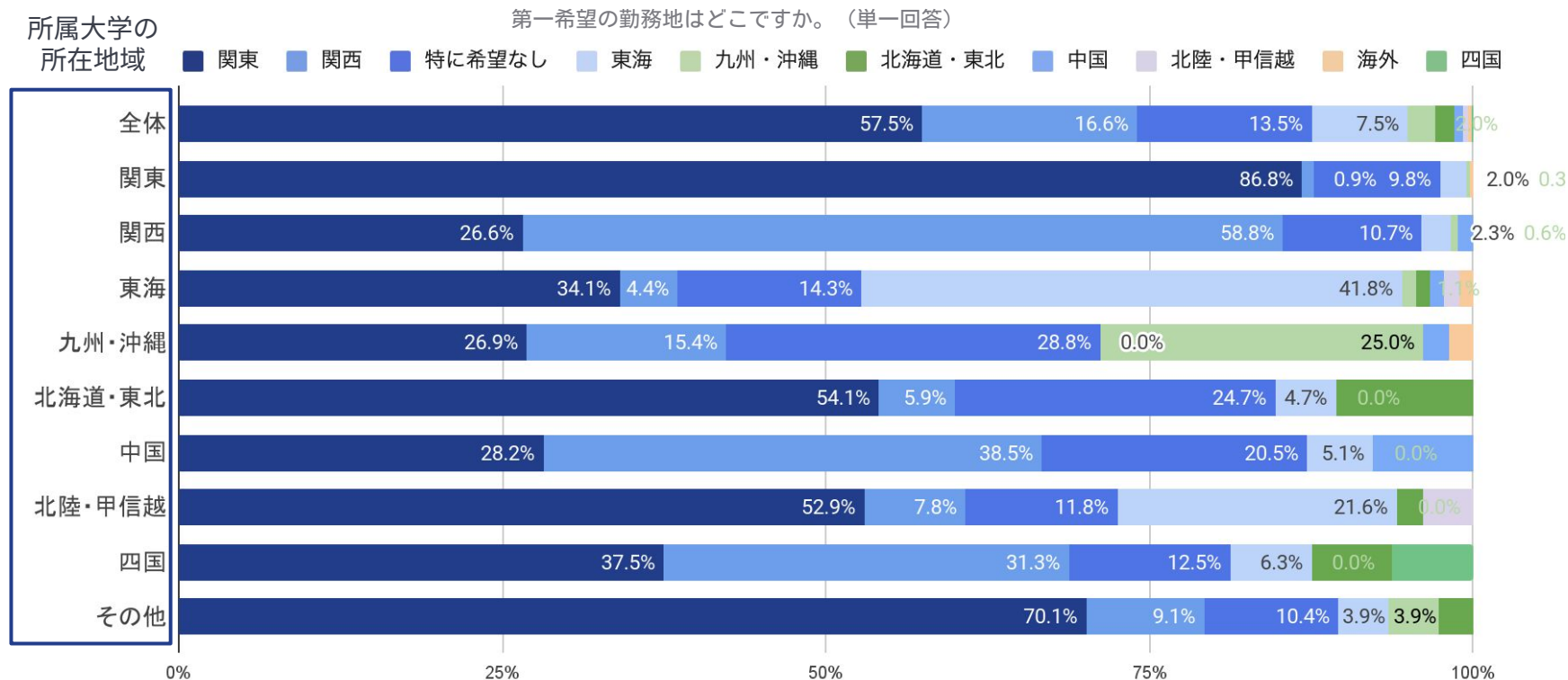
## 実際に応募するかどうかは「業務内容」「職種」への関心や 自分の専門性・研究を活かせるかを重視する傾向に

企業にエントリーしたいと思う理由として当てはまるものを教えてください。（複数回答）



## 第一希望の勤務地：所属大学の所在地域ごと

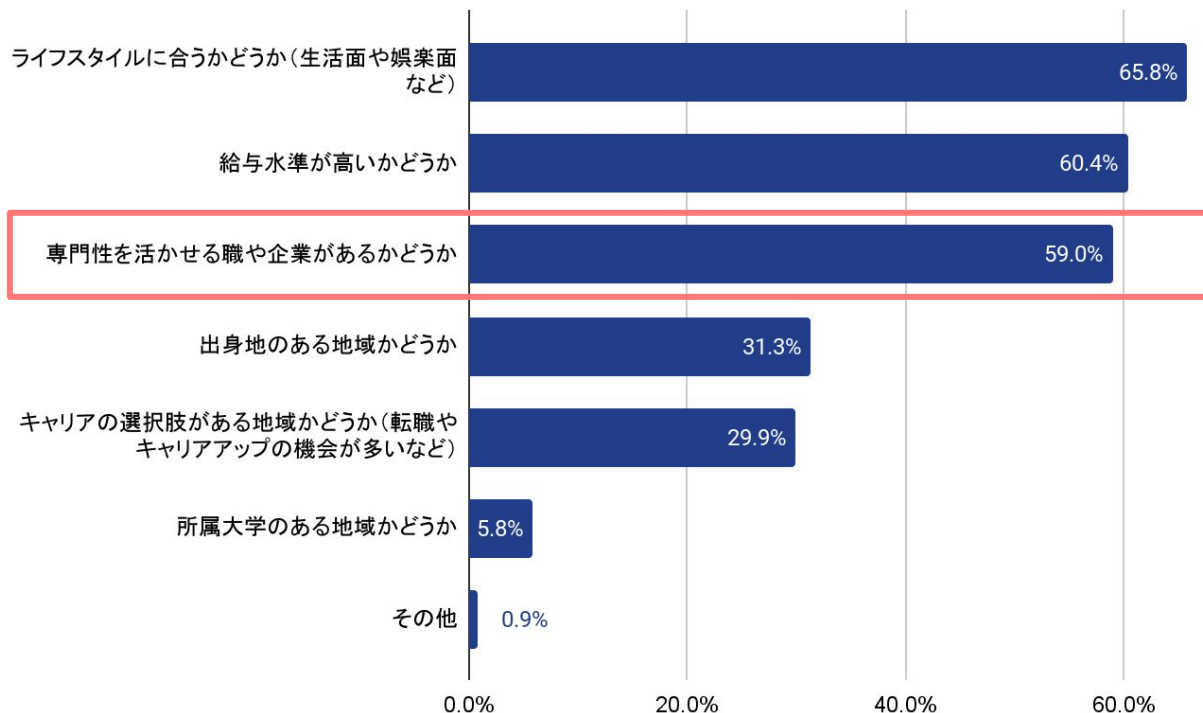
# 所属大学の所在地域ごとに希望勤務地をみても、 一定数が「特に希望なし」と回答





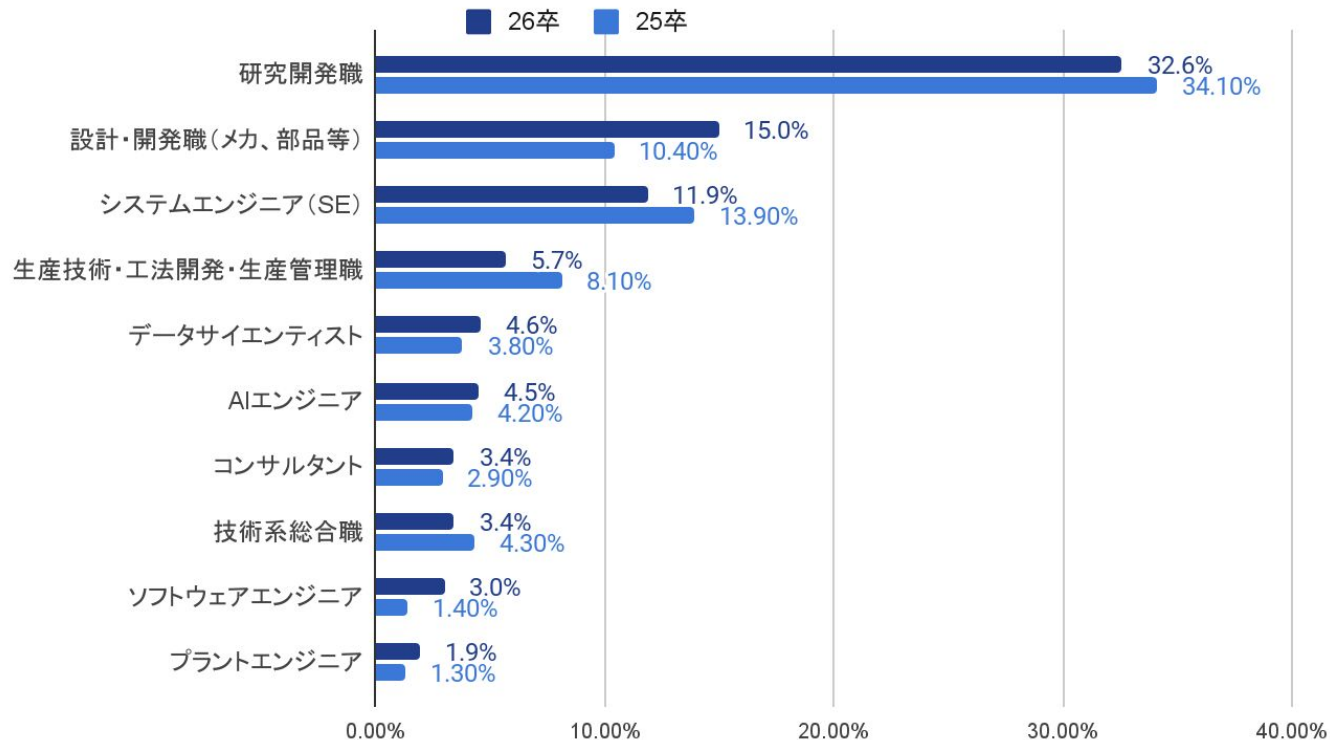
## ゆかりのある地域かどうかよりも、ライフスタイルに合うか、 専門性を活かせるかどうか重視される傾向に

希望する勤務地を決める上で重視するポイントはなんですか。優先度が高い項目を3つ選んでください。



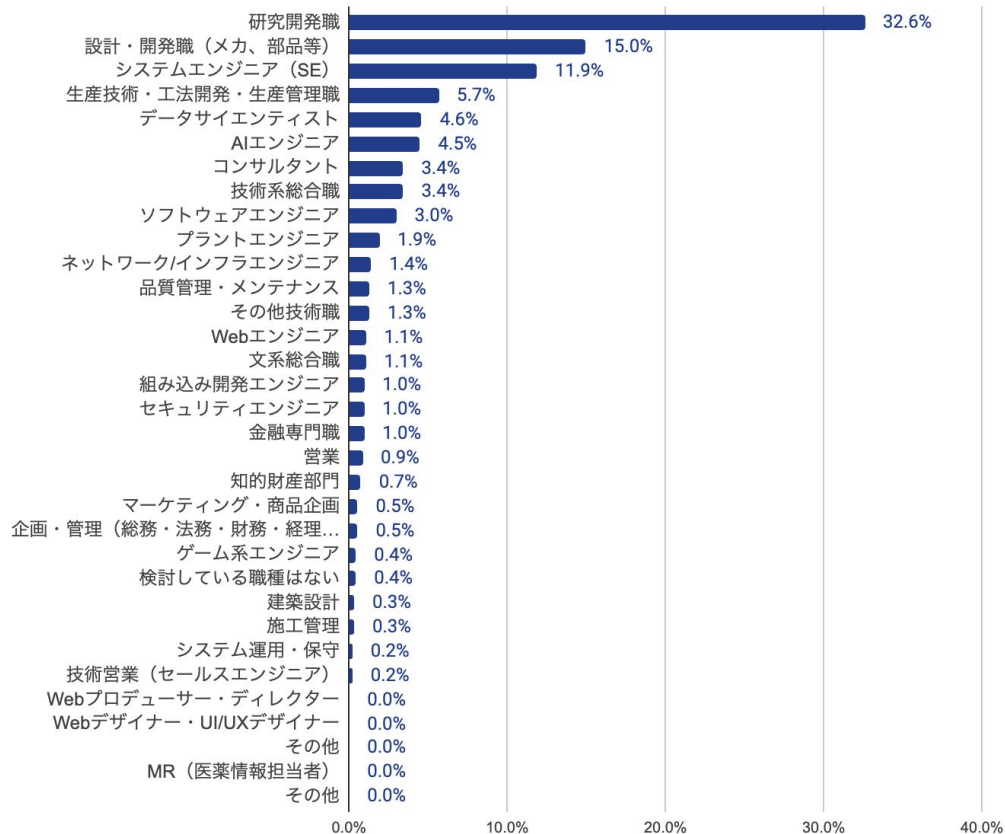
## 研究開発職が引き続き最も人気なもの、その他の職種への志望も高まる

現在の第一志望職種を教えてください。(単一回答)



## 参考：第一志望職種（全体）

現在の第一志望職種を教えてください。（単一回答）



# 04

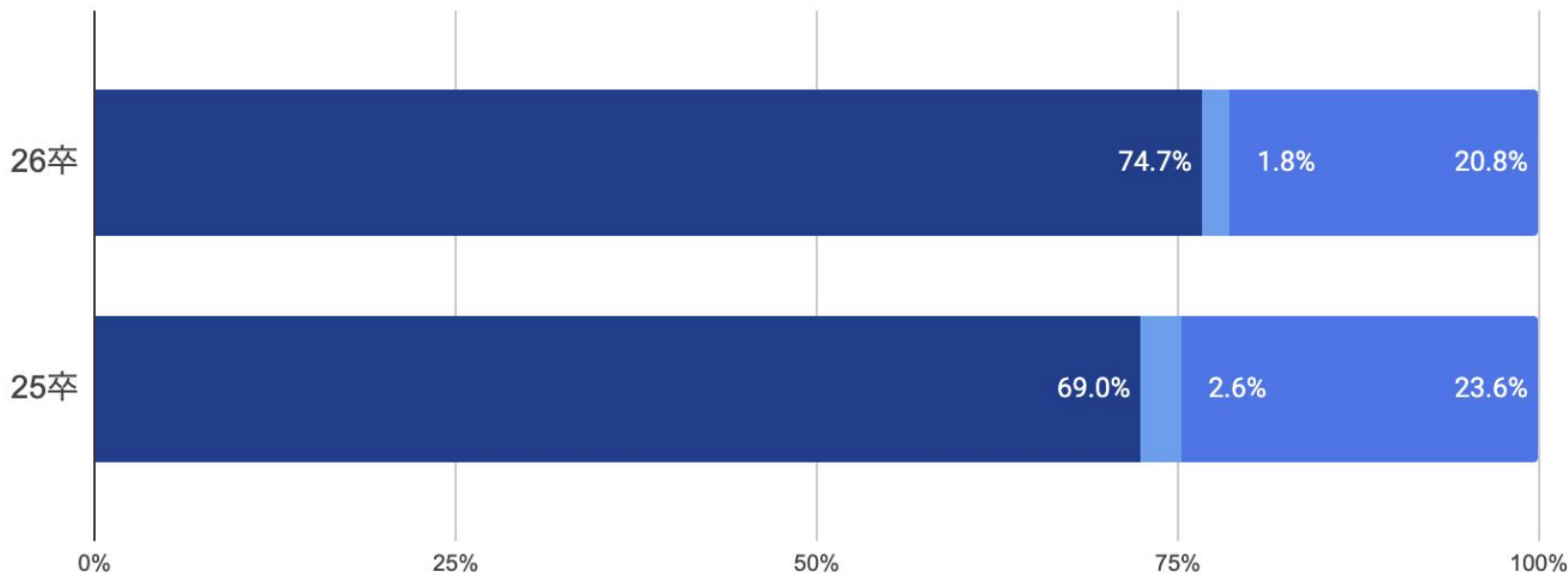
---

## 配属確約に関する 意識調査

## 確約の希望度合いは年々上昇傾向

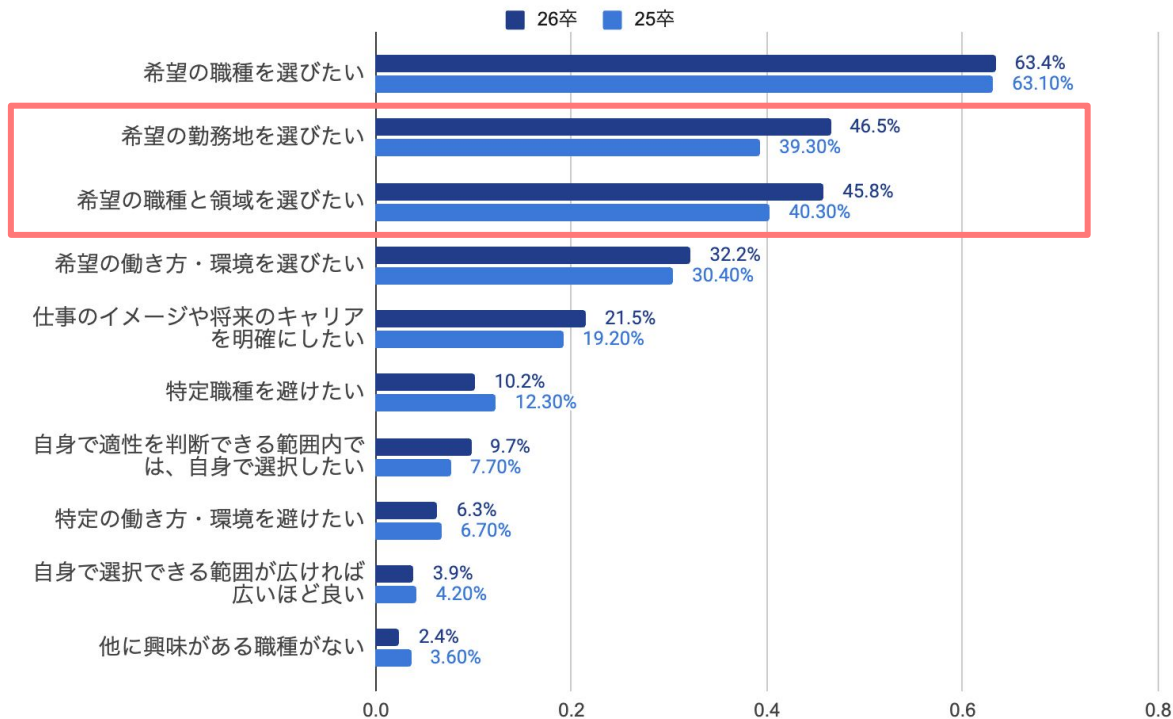
内定前の配属先（職種・部署・地域など）確約についてどのように感じますか。（単一回答）

■ 確約してほしい ■ 確約してほしくない ■ どちらでもいい



## 勤務地と職種×領域（ジョブ）確約の希望度合いがより高まる

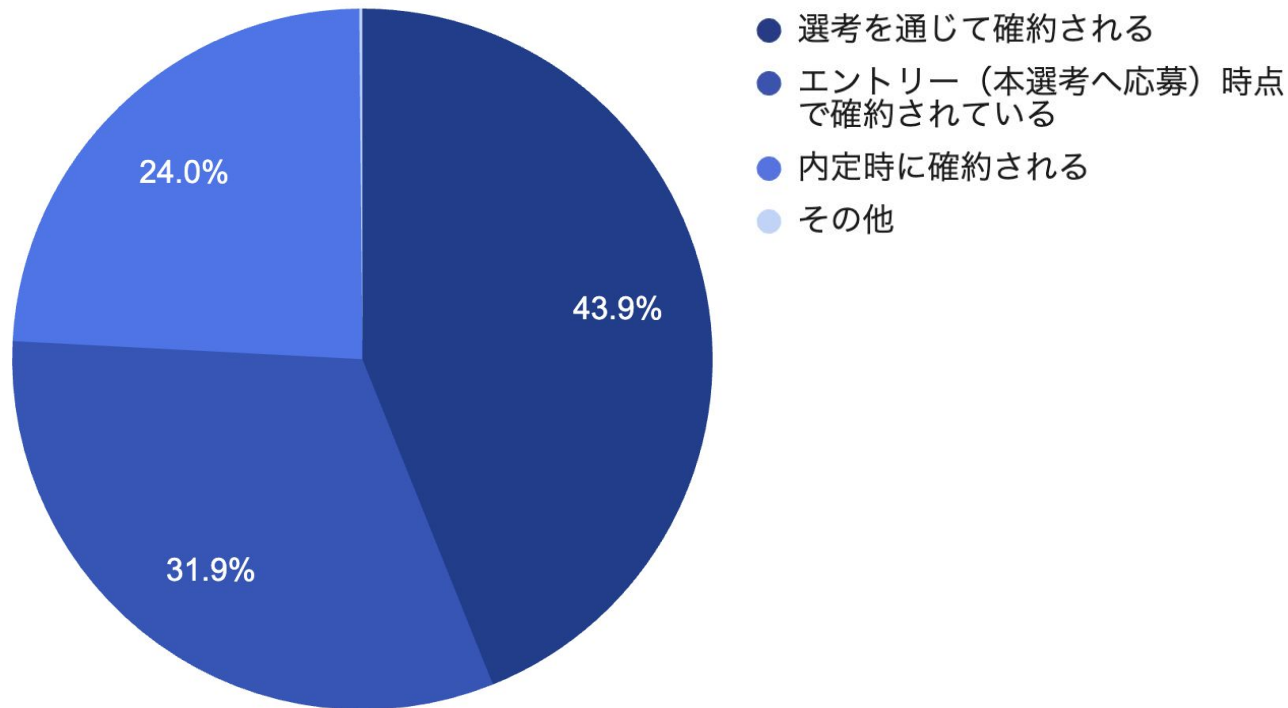
（「確約してほしい」と回答した方へ）なぜ確約してほしいと感じますか。（複数回答）



どのタイミングで確約してほしいか

## 「選考を通じて確約される」ことを希望する学生が約44%

（「確約してほしい」と回答した方へ）どのように配属先（職種・部署・地域など）を確約してほしいと感じますか。（単一回答）



# 05

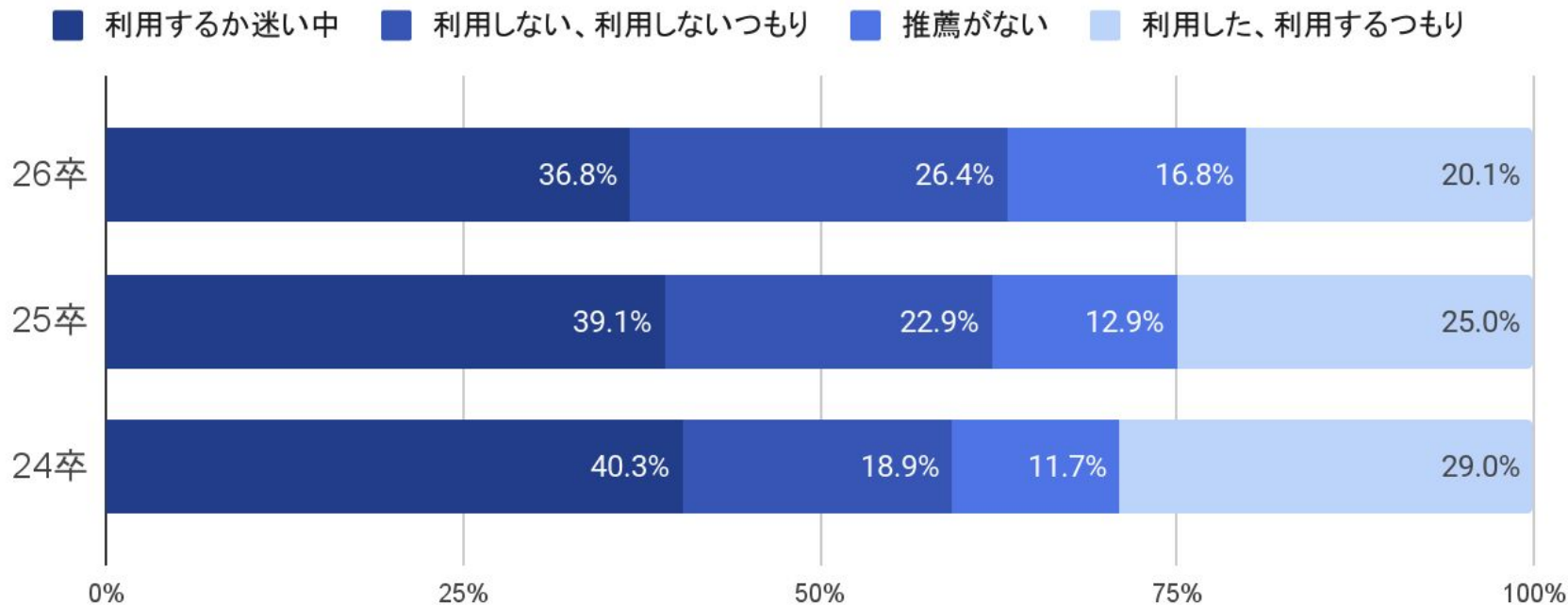
---

## 就職活動の手段



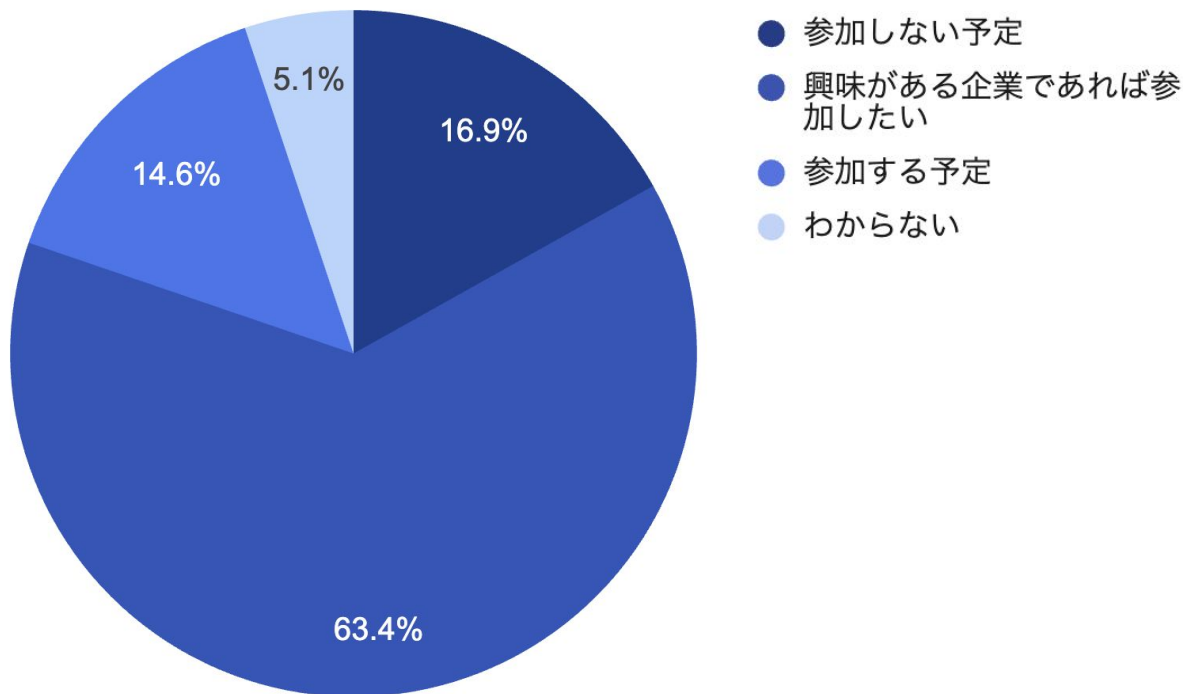
## 「利用しない、しないつもり」の割合が年々増加している

推薦利用意向を教えてください。推薦を利用したいと思いますか。（単一回答）



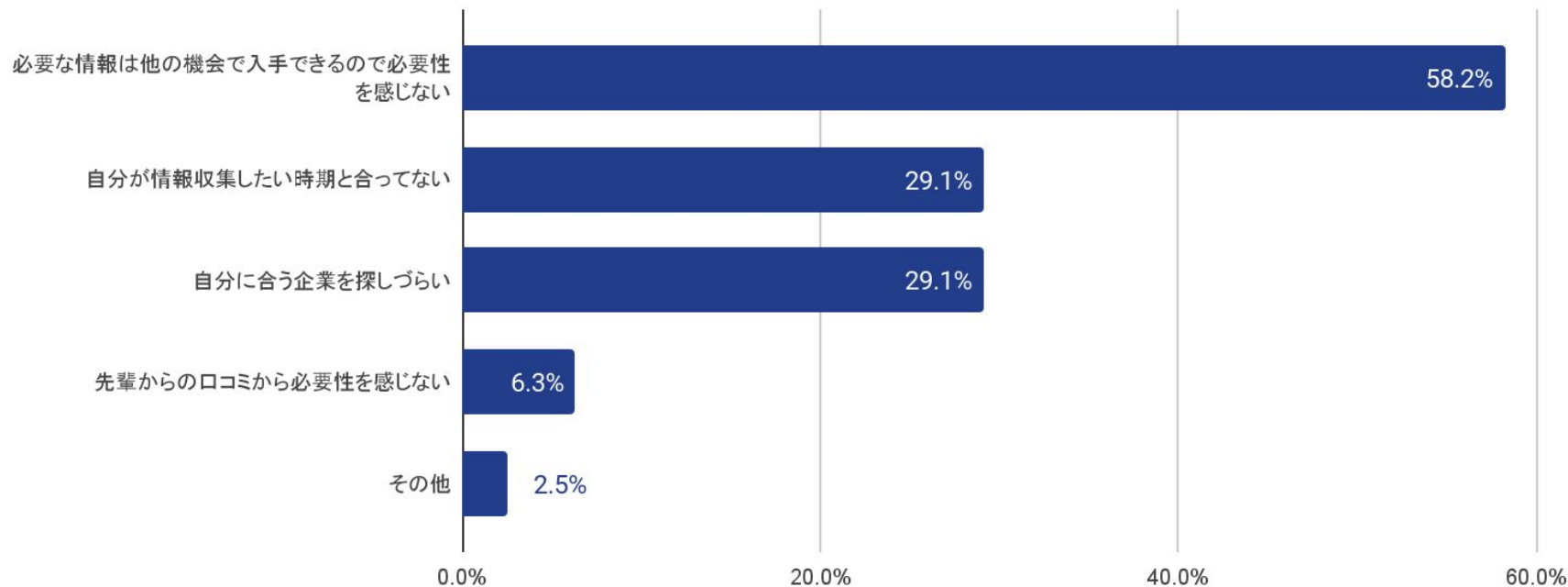
## 約64%が「興味がある企業であれば参加したい」とし、 知名度に課題がある企業にとっては学生にアプローチしにくい可能性も

学内企業説明会に関して参加意向を教えてください。（単一回答）



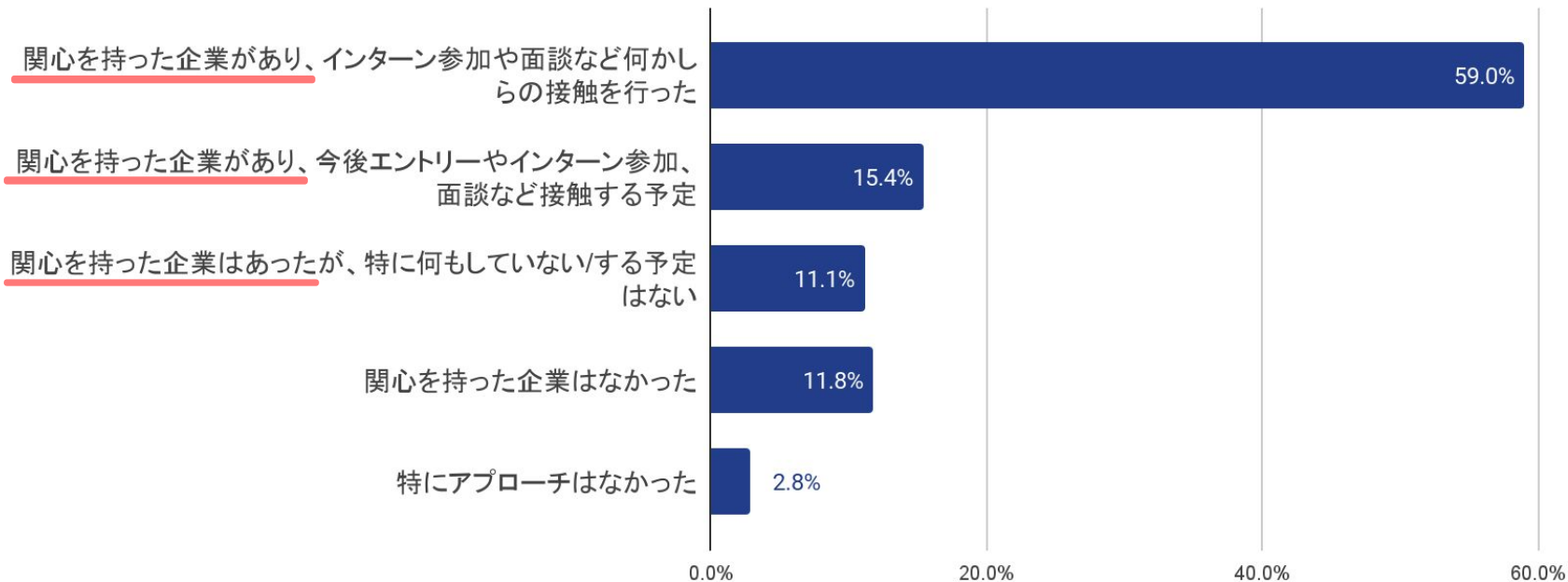
## 約58%が「必要な情報は他の機会で見ることができるので必要性を感じない」と回答 学内説明会が有効な機会と認識されていない傾向

（「参加しない」と回答した方へ）参加しない理由を教えてください。（複数回答）



## 86%がスカウトをきっかけに「興味を持った企業があった」と回答。

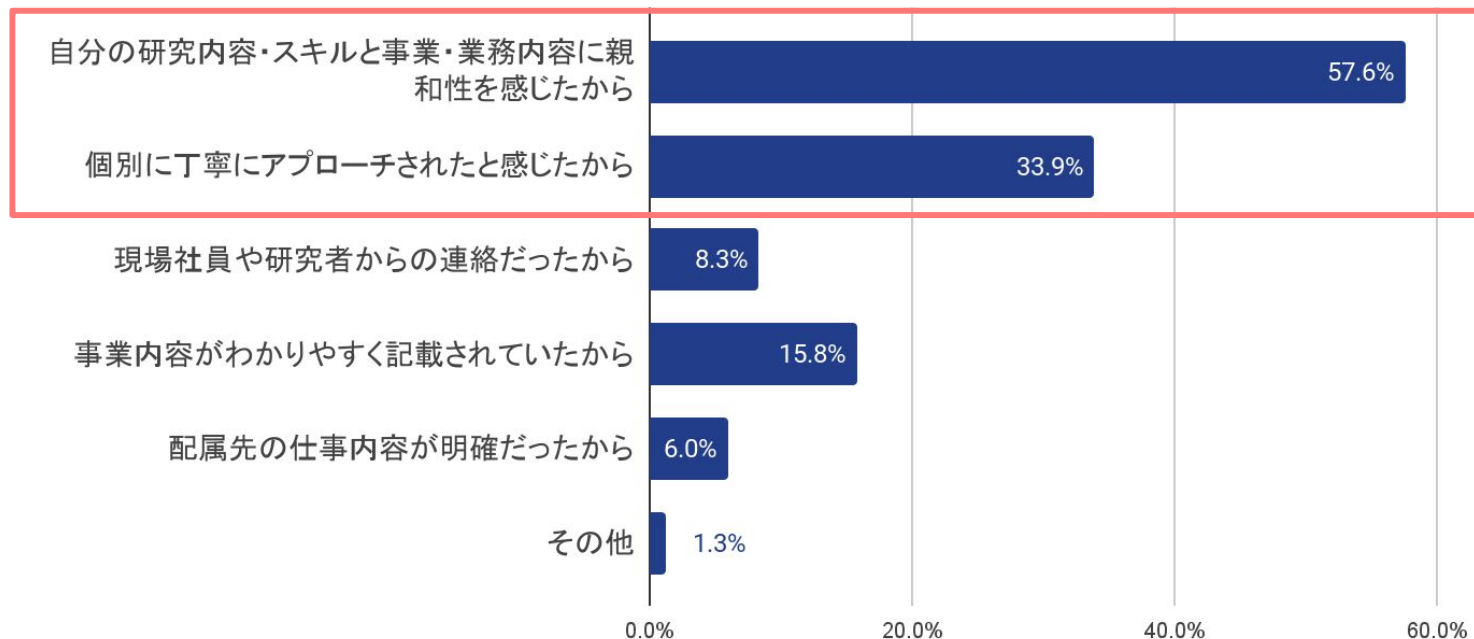
スカウトが届くなど企業からのアプローチをきっかけに、企業に関心を持ったことはありますか。（単一回答）



なぜスカウトから興味を持ったのか

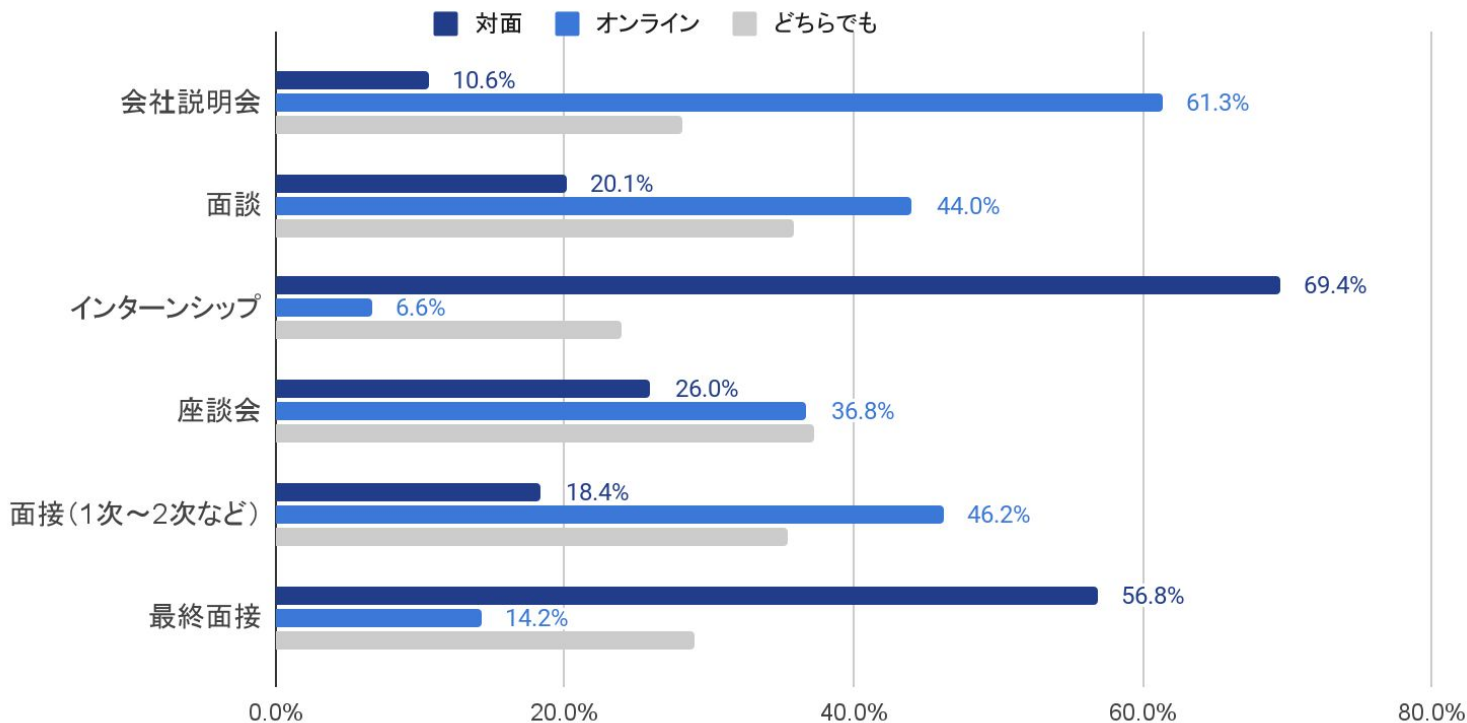
## 「研究内容・スキル」と事業内容への親和性を感じると関心が高まる傾向 「個別」アプローチかどうかも重視される

（「興味を持った」と回答された方へ） どういった理由から興味を持ちましたか。（複数回答）



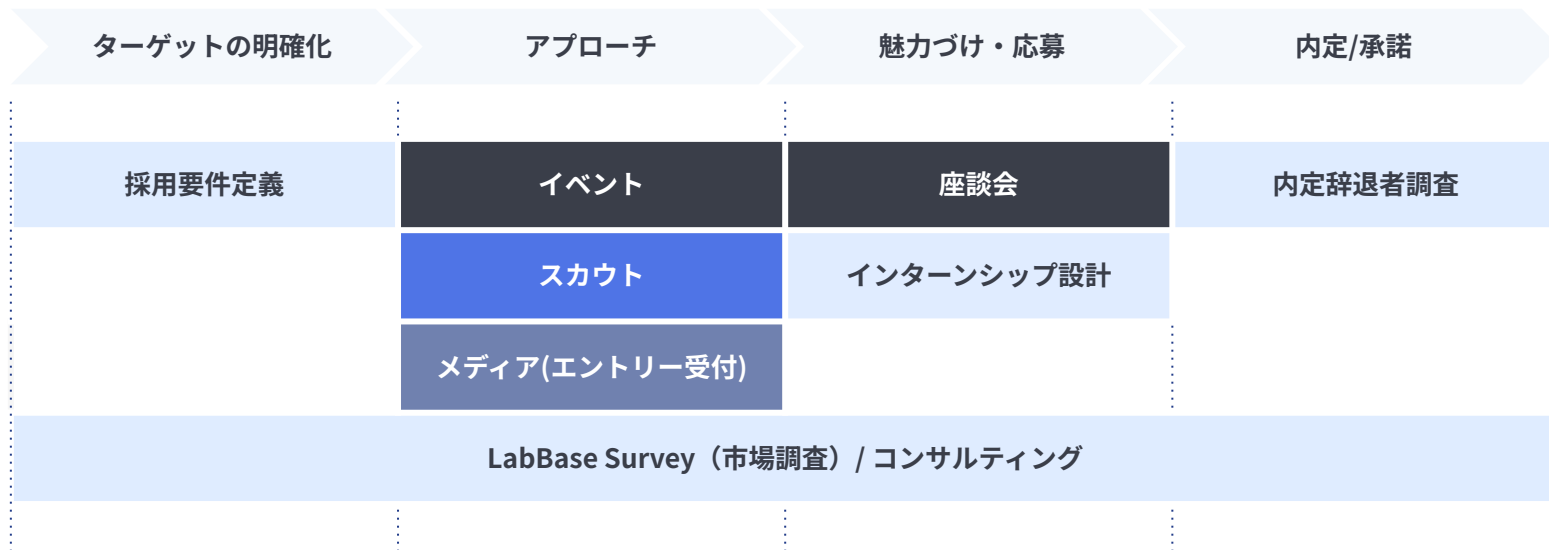
## コンテンツごとに希望の実施形式が異なる。 インターンは対面希望が約70%と、濃い体験を求めていると言える。

就活における各行事についてオンラインと対面のどちらでの開催を希望しますか。



 LabBase 就職

## 母集団形成（認知形成）から魅力づけ、そして内定承諾まで、 一貫して理系採用のご支援をしております





理系専門職の採用に  
効率的・効果的なアプローチができる

# LabBase 就職



## 理系専門職の採用に、効率的・効果的なアプローチができる

特徴

1

国内理系大学院生の

約**50%**が  
登録<sup>※1</sup>

特徴

2

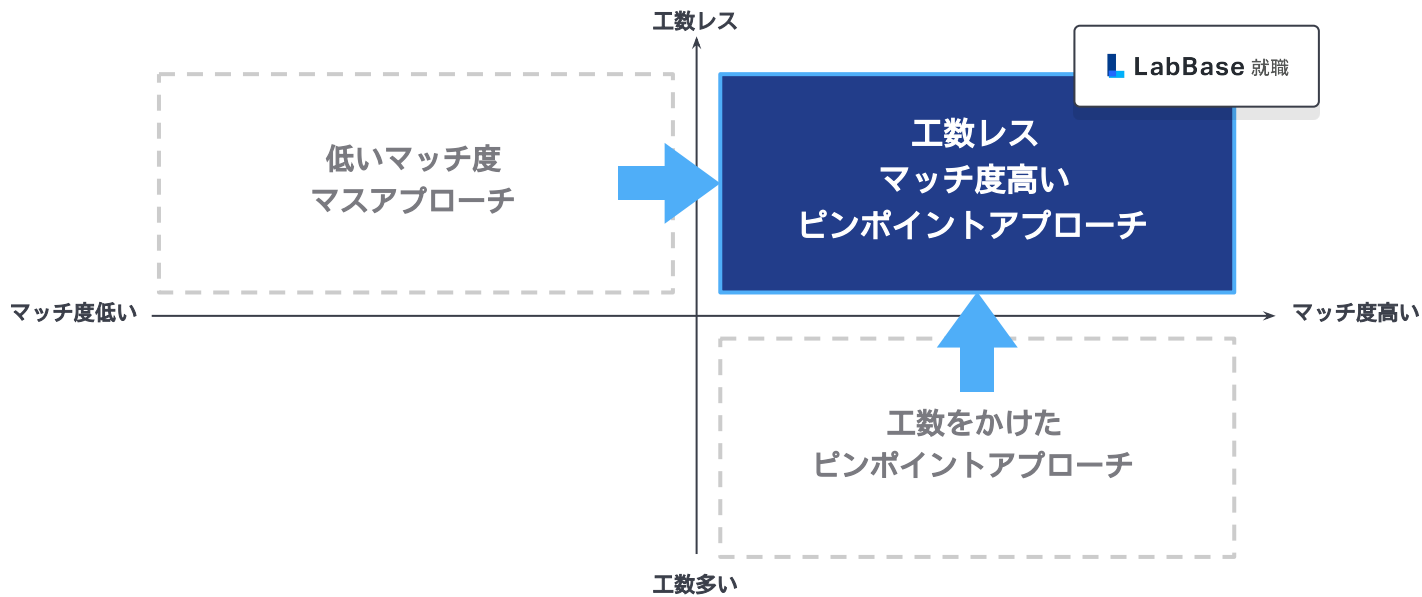
研究内容/  
スキルがわかる  
**豊富な  
プロフィール**

特徴

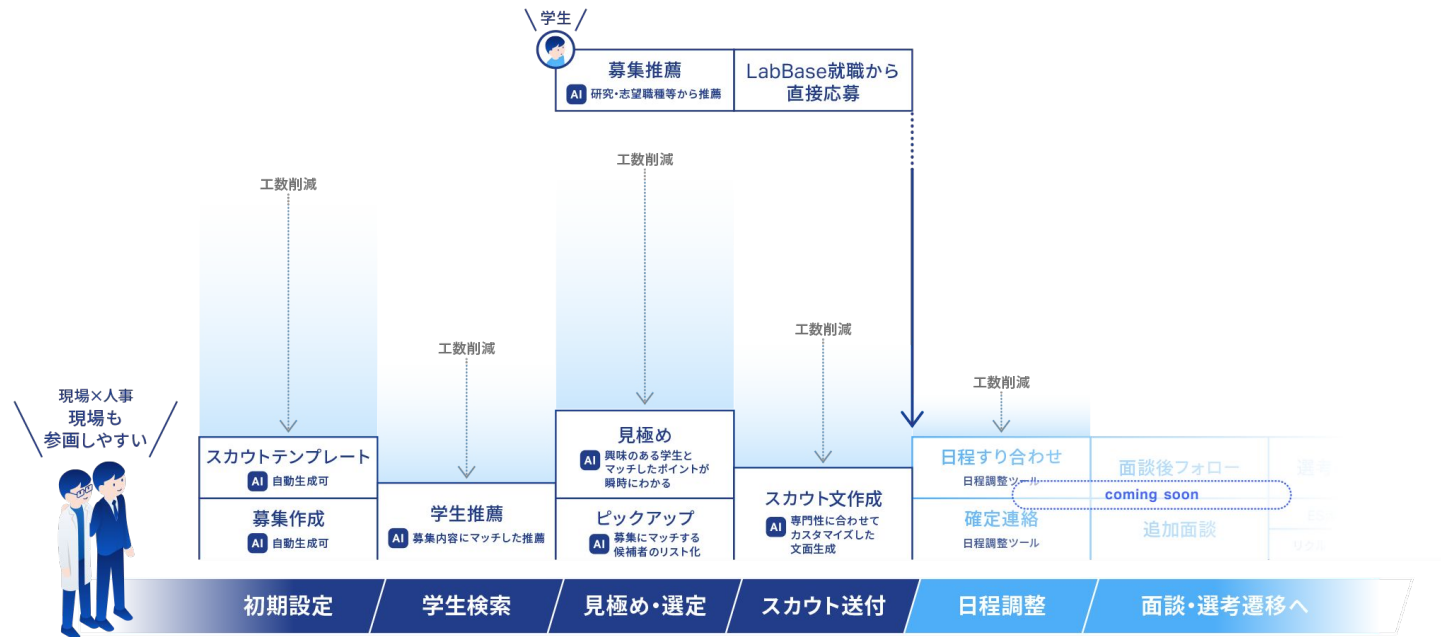
3

**効果的・効率的な  
アプローチ**  
が可能な  
機能開発

## マッチ度が高いピンポイントアプローチを 少ない工数で実現し、量と質を両立する



## 採用プロセスを、シンプルかつ高い精度へ まずはアプローチまでのプロセスを進化



## 企業側・学生側の双方から能動的にアプローチすることが可能



## 特徴①：国内理系大学院生の約50%が登録

### 国内理系大学院生の約50%が登録 専門性の高い多様な人材が在籍

26卒理系学生

約 **2.3** 万名  
が登録見込み

国内理系院生の

約 **50**<sup>※1</sup> %  
が登録

年次登録数（25卒実績と26卒見込み）

累計登録数

23,000

登録増加中

22,000

22,000

20,000

25卒

実績※2024年3月時点

26卒

見込み※2025年3月時点

## 特徴②：研究内容/スキルがわかる豊富なプロフィール

# 理系に特化した豊富な プロフィールだからこそ 本当に出会いたい学生が 見つかる

研究内容をベースに、将来やりたいことや就職先に  
求めることなど学生の嗜好性が精緻に確認できます。  
学生・企業双方のマッチングが図りやすい  
スカウトサービスです。

New



東京工科大学大学院工学院  
機械コース エネルギー工学専攻  
工学研究(多田研究室)修士1年  
西村 達吉 (23・男) 

3日以内にログイン

ログイン5社未満がスカウト

★ 貴社に興味あり / 2019年12月22日

メモを入力...

キープする

スカウトを送る

機械工学

船

エンジン

熱力学

自己紹介

東京工科大学大学院修士1年の田村俊です。大学院では機械系の専攻に所属しており、燃焼工学にまつわる研究を行っています。現在の研究テーマは「副室式着火ガスエンジンにおけるトーチ火炎の挙動について」です。機械設計やエンジンの性能評価といった機械

研究概要

私の研究テーマは「副室式着火ガスエンジンにおけるトーチ火炎の挙動について」です。この研究は中型から大型の船用エンジンにおける燃焼改善を題材としています。ガスエンジンとは天然ガスを燃焼としたエンジンのことで、従来の船舶用ディーゼルエンジン

就職先

1. 製品  
2. 研究  
3. 技術

研究を選んだ理由

データサイエンティストやビッグデータへの注目が集まったことからデータ分析に興味を持ったためです。また、最近ではPythonをはじめとする様々な言語において、古典的な統計分析や機械学習の実装が可能となっています。そこで、これらコンピュータサイエンスを利用した大規模データの分析に取り組みたいと思ったからです。 分野を電力に設定した背景としては、今後省エネルギー対策が必要となる有限な資源であるためです。主である発電方法の火力発電は二酸化炭素の排出量の問題があり、東日本大震災後の原子力発電の減少が著しいなどの問題を抱えています。従って、電力の使い方は今後の生活において考慮しなければならないことであり、重要な環境問題の一つであると言えます。

研究から学んだこと

私は研究を通して培った基礎的なデータ分析能力を有しています。欠損値や外れ値、カテゴリ変換などを含めたデータ整理から回帰分析や分散分析をはじめとする各種分析手法を統計解析ソフトStataを使って実践してきました。現在は機械学習の分類・予測モデルを実装するためにPythonやR言語を使用しています。授業でも様々なプログラミング言語を使用してきたため、アルゴリズムやコーディングの能力には自信があります。この技術に加え、ニューラルネットワークや活性化関数などの重要な知識を独学で学びました。また、研究を進める中でコンピュータサイエンスを駆使した開発能力と解決能力が養われていると自負しています。 これらITリテラシーに加えて、語学力とプレゼンテーション能力にも自信があります。大学院での授業が全て英語で行われていることや、海外研修後に経験した英語のプレゼンテーションがこれらの自信になっています。

## スカウト送付までの工数を削減 ターゲット学生に最適な アプローチをアシスト

生成AIを活用した機能開発により、配属先が必要とする学生との出会いをさらに加速させます。専門性の高い職種であっても、ターゲット学生に伝わる募集情報やスカウト文面の作成をアシストします。

本来、膨大な工数がかかる、かつ難易度の高い採用プロセスを効率的かつ効果的に実行することが可能です。





## LabBase就職はこれらを根本から一気通貫で解決します



# 研究の力を、 人類の力に。

Empowering Research, Empowering Humanity

研究エンパワープラットフォーム

## LabBase

## 株式会社LabBase

所在地：東京都港区西新橋一丁目1番1号 日比谷フォートタワー10F

設立：2016年9月23日

社員数：106人（2023年4月時点）

資本金：613, 130, 500円（資本準備金含む）

## 代表



株式会社LabBase 代表取締役CEO

加茂 倫明

1994年京都生まれ。大学勤務者の両親を持ち、幼少期より数学者を志す。東京大学理科二類入学後、研究領域の課題を目の当たりにし、国内外のベンチャー数社での長期インターンを経験後、東京大学工学部在学中の2016年に株式会社LabBase（旧POL）を創業。科学と社会の発展に世界で最も貢献する会社を目指し、研究エンパワープラットフォームを創造中。

## 事業内容

理系学生及び中途技術者の採用支援



LabBase 就職



LabBase 転職



LabBase キャリアイベント

## 受賞歴／掲載実績

- NHKニュース7ノーベル賞特集にて紹介
- テレビ東京 WBSにて紹介
- 東洋経済「すごいベンチャー100」選出
- 「TechCrunch Tokyo 2018」受賞

## ご利用方法や導入事例はWEBサイトでもご確認いただけます

お電話やWEBサイト上のお問い合わせ窓口より、お気軽にお問い合わせください。

### ▼ 資料ダウンロード



資料ダウンロードはこちら

<https://business.labbase.jp/downloads/>

LabBase就職をはじめて知っていただく方に向けて、  
わかりやすいサービス資料や理系学生に詳しくなれる  
お役立ち資料をご用意しています。

### ▼ お問い合わせ



お問い合わせはこちら

<https://business.labbase.jp/contact/>

03-6684-1539 (10:00～19:00)

お電話やWEBサイト上のお問い合わせ窓口より、  
お気軽にお問い合わせください。